

經 濟 学 部

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51101 | 経済演習Ⅰ | 必 | 1 | 4 | 通年 | 川 崎 勝 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 近代日本経済史の基礎研究

【講義内容】 経済史に限らず歴史の研究には、史料の収集と解説、その分析が不可欠である。古い時代に作成された史料には、墨筆の草書体で書かれた文書・記録や版本として印刷されたもの、さらに絵画史料など幅が広い。しかも用語・文章などにも難解なものが多い。そこで、幕末のペリーによる黒船来航から明治維新を経て文明開化にいたる時期の錦絵・瓦版などの絵画史料を読み解くことからはじめて、それと対応する最も基本となる文字史料を読んでいき、その時代の様相にせまっていきたい。

【講義計画】 <前期> テキスト①と活字化されている文字史料（コピーを配布）を読みながら、それぞれの時期の経済、政治、社会、文化など、広い視野から研究していく。
<後期> テキスト②を輪読し、その研究成果は、どのような史料を使って、どのような分析によってできあがったかなどを考え、史料批判の仕方を学んでいく。
<ゼミの進め方>
1. テキストを各自にテーマごとに割り当てて、報告・討論する。
2. 報告者（テーマによって1～3名）がレジュメ（絵の内容と文字史料の要旨と重要用語説明）を配布し、音読・内容説明をする。
3. 全員で質疑応答・討論する。
4. 報告者ではない学生も、毎時間レジュメ（要旨・用語解説）を用意して時間終了後に提出する。
演習は学生が自主的に運営するものであるから、初回に一年間のすすめ方について、十分に討論してもらおう。夏に合宿を行う。

【評価方法】 1. 演習での報告・発言の内容と、毎時間ごとに提出するレジュメ、およびゼミ活動への参加の状態。
2. 前期・後期終了時に、指示する課題についてのレポート。

【テキスト】 ①小西四郎監修・黒船館編『図説・黒船の時代』河出書房新社、1995年
②杉山伸也『明治維新とイギリス商人』〈岩波新書〉岩波書店、1994年

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51102 | 経済演習Ⅰ | 必 | 1 | 4 | 通年 | 花 井 敏 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 どんどん面白くなる経済（学）

【講義内容】 身近な問題（たとえば、「小売店のスタンプ何のため？」、「駐車違反はなぜ減らない」、「名古屋の嫁入りは本当に派手か？」）を通して、経済学的なものの考え方を学びたい。討議形式でゼミを進めてゆく。

【講義計画】 前期は、経済学的な考え方を具体的な例に則して学ぶことに主眼を置き、後期は、身近な問題を取り上げて討議する。

【評価方法】 ゼミへの参加意欲など総合的に評価する。

【テキスト】 なし。

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------|-------|-----|-----|-------|-----|---------|
| 51103 | 経済演習Ⅰ | 必 | 1 | 4 | 通年 | 水谷 重秋 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 社会科学入門

【講義内容】 現代不況、財政危機、高齢者福祉・介護、地球環境、自動車公害、原子力発電、規制緩和、日本版ビッグバンなど、現代におけるさまざまな経済・社会問題のなかからいくつかの問題を学生に選ばせ、それらの原因と解決法を考えさせる。

【講義計画】 上記のような経済問題ごとにグループを作り、グループ単位で研究する。研究したことをゼミで順番に報告して全員で議論する。最終的には個別に修了論文を作成することになる。

【評価方法】 毎回のゼミにおける活動状況をみて総合的に評価する。

【テキスト】 全員に共通のテキストは用いない。ただし、日本語の作文技術と修了論文作成の技術を身につけるために、次の3冊をゼミ生必読文献とする：

- (1) 本多勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫、1982年）
- (2) 本多勝一『実践・日本語の作文技術』（朝日文庫、1994年）
- (3) 木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------|-------|-----|-----|-------|-----|---------|
| 51104 | 経済演習Ⅰ | 必 | 1 | 4 | 通年 | 村松 久良光 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 ダイナミックに変動している現代の日本経済および環境問題などの今日の問題を対象として、経済学に対する問題関心を高めることをねらいとする。

【講義計画】 以下のテキストから関心のある章を一つ選んで、そのテーマごとに3、4人の班を編成し（同じテーマの班が複数でもよい）、グループ討論、資料収集、発表、質疑応答を行い、テーマを掘り下げて最終的に修了論文を作成する。

夏期には、山で2泊3日の合宿を行い、そこでチーム発表を行う。

【評価方法】 ゼミへの参加熱心度と書評、修了論文

【テキスト】 日本経済新聞社編『ゼミナール日本経済入門』（日本経済新聞社 最新版）その他に、日本経済新聞など

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------|-------|-----|-----|-------|-----|---------|
| 51105 | 経済演習Ⅰ | 必 | 1 | 4 | 通年 | 荒井 好和 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 金融システムと日本経済

【講義内容】 わが国の金融システムの変化の過程を追うことによって、金融システムと経済活動との関連をさまざまな観点から考えてみたい。

【講義計画】 テキストや日本経済新聞を素材に、グループごとにレジュメを作成し、発表、討論する。

【評価方法】 ゼミでの報告内容、発言、終了論文、その他ゼミへの貢献度を総合的に評価する。

【テキスト】 未定。

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|--------|----|----|-------|----|---------|
| 51106 | 経済演習 I | 必 | 1 | 4 | 通年 | 野村 信廣 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 経済学で考える日本経済

【講義内容】 現在、日本が抱えている重要な諸問題について、経済学を道具に考えていく。その過程で、新しい事実の発見に努める。

【講義計画】 テキストを各自が分担、レジュメを作成、発表、討論する。学年末に研究成果を修了論文として提出する。

【評価方法】 作業状況、発表内容、質疑応答、出席状況および学年末の修了論文等から総合的に評価する。

【テキスト】 辻正次・八田英二著「What's 経済学」(有斐閣)

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|--------|----|----|-------|----|---------|
| 51107 | 経済演習 I | 必 | 1 | 4 | 通年 | 吉本 佳生 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 新聞・雑誌を読んで、現実の経済問題に興味をもちましょう。

【講義内容】 新聞・雑誌の経済記事を通じて、少しでも現実の経済問題に興味・関心をもってもらい、また、それを題材にいろいろと考えてもらうことが、この演習の目的です。

【講義計画】 授業の形式・題材については、学生と協議の上で決定しますが、基本的には、毎回、各学生に新聞・雑誌から経済記事を選んでもらい、それを題材に発表などをしてもらいます。また、その題材に関連した基礎理論について簡単に講義します。

【評価方法】 平常点で評価しますが、必要に応じて課題の提出を求めます。

【テキスト】 未定。必要があれば指定します。

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|--------|----|----|-------|----|---------|
| 51108 | 経済演習 I | 必 | 1 | 4 | 通年 | 林 尚志 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 日本の経済援助のあり方を探る

【講義内容】 本演習では、日本並びにアジア経済が深刻な危機に直面する中でその真価が問われている「日本の経済援助」の現状及び問題点を理解した後、より望ましい援助のあり方を求めて建設的、具体的な改革案を探っていく。その過程で、生きた経済学を学ぼうとする意欲を高めることを目的とする。

【講義計画】 [1] 前半は上記テキストを用いて、日本が発展途上国に対して行っている経済援助活動、とりわけODA（政府開発援助）について現状を学ぶ。3-4人の班ごとに各章を担当し、発表を行う。[2] 夏期休暇中には、日本の経済援助に関する文献リストの中から、自らが興味を持ったものを一冊選び、書評を作成する。[3] 後半は、班を再編成し、班全員の書評を出発点としながら、班別に「日本の経済援助体

制の問題点および今後の改革案」をまとめて対抗討論会を行い、事前準備、討論論旨、チームワークの3点について優劣を競う。

【評価方法】 (1) 発表、質問等、演習中の参加姿勢、(2) 各係としてのゼミ活動への貢献、および、(3) 夏休みの書評、修了論文等の提出物に基づいて評価を行う。

【テキスト】 久保田 勇夫編『Q&AわかりやすいODA 新訂版』(新訂版、ぎょうせい、1998年)

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|--------|----|----|-------|----|---------|
| 51109 | 経済演習 I | 必 | 1 | 4 | 通年 | 上田 薫 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 現実の経済問題を議論する上で経済学の知識がどの様に用いられるかを、下記の教科書及び参考書を読みながら学んでいきたいと考えています。

【講義計画】 グループにより順番にレポートしてもらいながら、教科書と資料を読んでいます。私の方からも適宜質問や解説を加えるつもりです。

【評価方法】 出席、報告の仕方、修了レポートで評価します。

【教科書】 野口旭 「経済対立は誰が起こすのか」ちくま新書1998年

【参考書】 クルーグマン、プレストウィッツ他 「日米は何故対立するのか」中央公論1995年
小宮隆太郎 「貿易赤字・黒字の経済学」東洋経済1994年 他

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|--------|----|----|-------|----|-------------|
| 51110 | 経済演習 I | 必 | 1 | 4 | 通年 | Muncada, F. |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 労働移民

【講義内容】 毎年、何千人の外国人が労働者として日本にやって来ます。彼らはどうして日本に来ていますか？らがだれと結婚していますか？国際結婚と一般の結婚にどうな問題が出てきますか。この演習に英語と日本語のテキストを使って進めたいと思います。

【講義計画】 二人か二人で一つのグループを作る。客グループは、与えた日本語と英語の労働移民教材を要約して発表する。発表はワープロで打ったレシユメめを用意してもらいます。前期；労働移民の理論を勉強する。後期：日本とアジアの労働移民を取り上げる。

【評価方法】 出席状態、作業状態、発表、討論、終了論文。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|--------|----|----|-------|----|---------|
| 51111 | 経済演習 I | 必 | 1 | 4 | 通年 | 井上 知子 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 はじめての経済学

【講義内容】 2年次で経済原論を受講する前に、「経済学で扱う問題にはどのようなものがあるのか」そして「それ

らをどのように分析するのか」を、下記のテキストを使って学ぶ。そして、この過程において、文献の検索、及び経済学辞典の利用を習慣づける。さらに、修了論文の作成を通じて、ワープロソフトの利用、論文の書き方(スタイル)の習得等、諸手段を身につける。

【講義計画】ゼミ生全員が各々テキストの1部分を担当し、発表する。

【評価方法】本人の発表、他者の発表の際のコメント、書評、及び、修了論文によって評価する。

【テキスト】酒井泰弘「はじめての経済学」有斐閣ブックス

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 | | |
|------------------|-----------|----|----|----|----------|-------|------|----|
| 51131) 51134 | 経済学のための数学 | 必 | 1 | 各2 | 前期 後期 | 宮元 忠敏 | | |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 | 不可 |

【副題】微分法入門

【講義内容】1変数の関数の微分法を中心とする。将来、数学を応用する立場に立つことを考慮して、基礎的な数学概念および定理がわかりやすく、使いやすいように講義する。

【講義計画】数学観念、定理の意味をつかみやすいように、できるだけ図形的な意味を説明の中に取り入れる。また、小さな区切り毎に、例題、問題の解法を入れ、理解の助けとなるようにしつつ講義をすすめる。数学が嫌いな諸君には「数学A」の併行履修を勧める。

【評価方法】筆記試験により評価する。出席も考慮に入れる。

【テキスト】西本敏彦著『微分積分学講義』培風館

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 | | |
|------------------|---------|----|----|----|------------|---------------|------|----|
| 51141) 51148 | データ処理入門 | 必 | 1 | 各2 | 前期 夏期集中 | 近藤 仁 吉根 勝美 | | |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 | 不可 |

【副題】経済データの処理とレポートの作成

【講義内容】論文やレポート作成に役立つ文章の推敲が簡単に行える日本語ワープロの基礎を学習し、また経済の動きに関する理解を深めるため、現実の経済データを利用して平均や分散あるいは頻度・分布といった統計的データ分析の初歩的手法や成長率や指数変換といったデータの加工手法などを表計算ソフトを用いて学習する。さらにプレゼンテーションの有用な手法としてのグラフの使用法などを、パソコン統合ソフト「MS-OFFICE」を用いて学習する。

【講義計画】①情報化社会と情報倫理（情報化社会とデータ、情報の管理、情報倫理）
②パソコン入門（コンピュータ、オペレーティング・システム、ファイル管理等）
③ワープロ入門（日本語入力・変換、第二水準漢字、書式、レポートの書き方等）
④経済データ入門（経済データの種類と特性）
⑤表計算入門Ⅰ（統計学入門：平均、分散、標準偏差、度数分布、正規分布等）
⑥表計算入門Ⅱ（データ加工入門：変化率・成長率、指数・対数変換等）
⑦グラフ入門（プレゼンテーション手法としての各種グラフ）
⑧統合（表・グラフの文書への取り込み）
により、パソコンを用いたデータ処理方法を順次学習する。
また、講義テーマに応じて、3回程度のレポートを課すことによって、各自の理解を促進させる。

【評価方法】出席とレポート提出により、総合的に評価する。

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------------|-------------|----|----|------------|----------|---------------|
| 51151 51161 | 経済入門Ⅰ・Ⅱ [経] | 必 | 1 | 各2 | 前期 後期 | 大谷津 晴夫 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 不可 | 重 複 履 修 不可 |

【講義内容】 テキストに従って講述し、随時演習問題を解いていく。

- 【講義計画】
1. なぜ経済学を学ぶのか
 2. マクロ経済学とは何か
 3. 有効需要
 4. 貨幣の機能と信用創造
 5. 資産選択と貨幣需要
 6. 財政・金融政策のメカニズム
 7. 消費者行動と需要
 8. 費用の構造と供給行動
 9. 市場取引と資源分配の効率性
 10. 独占の理論
 11. 各種の応用問題

【評価方法】 定期試験と随時行う小テストの成績にしたがって評価する。

【テキスト】 伊藤元重著『入門経済学』日本評論社

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------------|-------------|----|----|------------|----------|---------------|
| 51152 51162 | 経済入門Ⅰ・Ⅱ [経] | 必 | 1 | 各2 | 前期 後期 | 林 尚志 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 不可 | 重 複 履 修 不可 |

【副 題】 経済学を用いて考える

【講義内容】 本講義では、健在に関連する様々な疑問を取り上げ、これらに対して回答の手がかりを与えていく。たとえば、「輸入の自由化や規制緩和が必要といわれるがこれはなぜなのか。すべてを自由化した場合に問題は生じないのか?」、「日本の貿易収支は大幅黒字と言われるが、政府は巨額の財政赤字をかかえているらしい。一体、日本経済は黒字なのか、赤字なのか?」、「資源環境問題が深刻化していると言うが、人間生きるためには石油も使うし、ゴミも出る。どうすればよい?」、そして「なぜ日本経済は深刻な不況からなかなか立ち直れないのか?」等々.....

これらをともに考えながら、(1) 経済学は、我々の暮らしの重要な側面である“経済”をどのようにとらえているのか? (2) 経済学は、現代社会のかかえる課題に対して、どの程度解決の糸口を与えてくれるのか?といった点を学んでいこう。

【講義計画】 予め、1 講義当たり数問からなる疑問点をまとめた教材プリントを配布し、これらの疑問に答えていく形で講義を行う。出席者の理解度に応じて、進度を調整する。

【評価方法】 定期試験、および随時行われる予定の小テストに基づいて評価を行う。

【テキスト】 特にテキストは定めないが、以下を参考文献とする予定。
 (1) 伊藤元重著「入門 経済学」(日本評論社)
 (2) 福田慎一・照山博司著「マクロ経済学・入門」(有斐閣)

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|---------|----|-----|-------|----------|---------|
| 51153 51163 | 経済入門Ⅰ・Ⅱ | 選 | 1~4 | 各2 | 前期 後期 | 加藤 尚史 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可修(除く経済) | 重複履修 不可 |

【講義内容】 経済学の基礎的な概念について解説する。

【講義計画】 ミクロ経済学とマクロ経済学に分けて、それぞれを前期と後期で採り上げることにしたい。

【評価方法】 定期試験の成績に出席状況を加味する。

【テキスト】 福岡正夫（1994）.『ゼミナール経済学入門』（改訂2版）日本経済新聞社.

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|---------|----|-----|-------|----------|---------|
| 51154 51164 | 経済入門Ⅰ・Ⅱ | 選 | 1~4 | 各2 | 前期 後期 | 野村 信廣 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可修(除く経済) | 重複履修 不可 |

【副題】 日本経済とマクロ経済学

【講義内容】 現在、日本経済が抱えている諸問題に関して、マクロ経済学の立場から具体的に考えていく。理論的、実証的、歴史的に取り組んでいく。

【講義計画】 テキストをまず理解するところからスタートし、必要に応じて関連の資料を用意して、理解を深める。時に、学生達にカレントな経済問題に関してコメントを提出させたり、意識調査を実施して、分析させたり、経済学を身近なものにしてもらう。

【評価方法】 各期末の筆記テストにコメント・意識調査への参加度、出席状況を加味して総合的に評価する。

【テキスト】 福田慎一・照山博司著「マクロ経済学・入門」（有斐閣）

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51171 | 経済演習Ⅱ | 必 | 2 | 4 | 通年 | 花井 敏 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 問題の発見、分析、解決の学習

【講義内容】 たとえば、「日本は学歴社会か」、「名古屋人はケチか」、「駐車違反問題にいかに対処するか」、「日本の出生率はなぜ低下しているのか」、「ガソリンの値段はなぜ横並びか」、といった具体的な（経済）問題を取り上げ、こうした問題にどのように取り組み、いかにして最終的な成果にまで到達するか、といった一連のプロセスを学びます。

【講義計画】 まず前期では、4、5人からなるグループを作り、私が与える（比較的やさしい）問題に対して、どのようにアプローチして最終的な成果にまで到達するかにゆっくりと取り組みます。夏休みの合宿で各グループでそれぞれの問題、課題を発見してもらい、さらに、問題分析、問題解決へと進み、最後にレポートにまとめてもらいます。

【評価方法】 ゼミ出席、調査プロジェクトの成績、ゼミでの討論、などを総合的に評価します。

【テキスト】 特定のテキストは使いません。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51173 | 経済演習Ⅱ | 必 | 2 | 4 | 通年 | 林 尚志 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 ゼミナール「アジア経済入門」

【講義内容】 近年めざましい経済発展を遂げ世界的な脚光を浴びながら、一転して深刻な経済危機に陥った東アジア経済についての理解を深めるべく、(1) 下記テキストに従って「東アジア経済のダイナミズム」が生まれるに至った発展のメカニズムを学ぶとともに、(2) 各自が興味ある国を選び、各国が現在直面している危機の現状、並びに解決に向けた今後の方向性を探る。

【講義計画】 前期は、NHK市民大学での筆者の講義がまとめられている下記テキストを読み、東アジア経済が発展を遂げる上での背景、並びに発展の基本的なメカニズムを理解する。3-4人で班を構成し、一班がテキスト内容に関する発表、別の一班がサポート資料(関連・最新データ等)の発表、さらに別の一班が質問を担当する。

後期は、各自が興味ある国に関して作成した「前期修了レポート」を活用しながら、再編成した班対抗での討論会を行い、東アジア各国の(あ)これまでの発展の軌跡、(い)現在直面している危機の状況、(う)危機打開に向けての方向と可能性、の3点を探っていく。そして、1年を通じて学んだことを振り返り、「後期修了論文」を作成する。

【評価方法】 (1) 出席を重視し、(2) 発表、質問、討論会等、演習への参加姿勢、(3) 前期修了レポートおよび後期修了論文、ならびに、(4) 各係としてのゼミ活動への貢献度に基づいて評価を行う。

【テキスト】 渡辺利夫著、「アジア経済をどう捉えるか」NHKブックス568、日本放送出版協会、1989年、800円

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51174 | 経済演習Ⅱ | 必 | 2 | 4 | 通年 | 大谷津 晴夫 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 医療保障の経済学

【講義内容】 日本の医療保障制度の現状と問題点を探る。

【講義計画】 報告当番とコメント当番を決めて、テキストの輪読と計議を中心に進める。年度末の演習の終了時にはレポートを提出してもらう。

【評価方法】 出席、発表、レポートを総合的に評価して成績をつける。

【テキスト】 池上直己他『日本の医療』中公新書

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51175 | 経済演習Ⅱ | 必 | 2 | 4 | 通年 | 櫻井 健吾 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 テーマ：社会科学の古典を読む。今年は、ケインズと自由主義経済学者ハイエクを対比して読む。

【テキスト】 1) 前期：ケインズ『自由放任の終焉』(1926年)
2) 後期：ハイエク『隷従への道』(1944年)

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------|-------|-----|-----|-------|-----|---------|
| 51176 | 経済演習Ⅱ | 必 | 2 | 4 | 通年 | 山田 正次 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 日本の経済が国際経済の動きとどのようなかわりをもっているのか考える。

【講義計画】 教科書として、伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』（日本経済新聞社）を使用し、グループごとの発表と討論を行う。秋の合宿で、各自が国際経済に関連するテーマを選んで報告し、学年末にそのレポートを提出する。

【評価方法】 普段の報告と質疑応答、夏休み明けの書評、そして学年末のレポート等から総合的に評価する。

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------|-------|-----|-----|-------|-----|---------|
| 51177 | 経済演習Ⅱ | 必 | 2 | 4 | 通年 | 荒井 好和 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 「日本版ビッグ・バン」について考える

【講義内容】 「日本版ビッグ・バン」の狙い、影響、効果についてさまざまな観点から考える。さしあたり、新聞・雑誌等に掲載された「ビッグ・バン」に関する記事を取りあげ、それらを一一つ確実に理解することから始めたい。

記事の内容を理解するためには、当然のことながら、記事にでてくる術語、金融制度などについて知らなければならない。金融に関する知識の幅を広げなければならない。その意味で、この演習では「現実」を素材にして「新しい金融の仕組み」を理解することを意図している。

【評価方法】 (1) 2回無断欠席はF。
(2) 成績は、毎時間の報告内容、討議への参加度、学年末に提出するレポートなどで評価する。

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------|-------|-----|-----|-------|-----|---------|
| 51178 | 経済演習Ⅱ | 必 | 2 | 4 | 通年 | 加藤 尚史 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 英語で書かれた文献を通して、経済学とそれに必要な数学の基礎的知識を身につける。

【講義計画】 テキストの内容に関して、担当者が報告し、全員で議論することにした。

【評価方法】 演習への参加の状況などに基づいて評価する。

【テキスト】 Martin Anthony and Norman Biggs (1996). *Mathematics for Economics and Finance*, Cambridge University Press.

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------|-------|-----|-----|-------|-----|---------|
| 51179 | 経済演習Ⅱ | 必 | 2 | 4 | 通年 | 井上 知子 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 経済学を学ぶ上で必要と思われる数学的基礎を学ぶ

【講義内容】 テキストの第2章「最適化問題」を中心に、経済学を学ぶ上で必要と思われる数学的基礎を学ぶ。そして、分析手法だけでなく、物事を論理的に考えるトレーニングを行う。なお、テキストを読む際の主要な参考文献として、稲田献一「経済数学の手ほどき」日経文庫を挙げる。

【講義計画】 ゼミ生全員が各々テキストの1部分を担当し、発表する。

【評価方法】 本人の発表、他者の発表の際のコメント、書評、及び、修了論文によって評価する。

【テキスト】 吉田和男「経済学に最低限必要な数学」日本評論社

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|-------------|
| 51180 | 経済演習Ⅱ | 必 | 2 | 4 | 通年 | Muncada, F. |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 国際結婚

【講義内容】 毎年、何千人の日本人が外国人と結婚しています。彼らがだれと結婚していますか？国際結婚と一般の結婚にどうな問題が出てきますか。この演習に英語と日本語のテキストを使って進めたいと思います。

【講義計画】 二人か二人で一つのグループを作る。各グループは、与えた結婚や国際結婚の論文を要約して発表する。発表はワープロで打ったレシユメめを用意してもらいます。前期；一般結婚の色々な問題を取り上げます。後期；日本における国際結婚の具体的なやり方を取り上げます。国際結婚についての討論とアンケートもやります。

【評価方法】 出席状態、作業状態、発表、討論、終了論文。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|-----------------|----|----|-------|----|---------|
| 51201 51941 | ミクロ経済学 経済原論Ⅰ | 必 | 2 | 各4 | 前期 | 水谷 重秋 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 個別経済主体の合理的経済行動を基にした価格機構の働きを分析する。

【講義計画】 次の12の話題のそれぞれを2-3回の講義で説明していく。
 (1) 市場機構と需要・供給 (2) 消費者と需要 (3) 消費者行動と需要曲線 (4) 企業行動と生産関数
 (5) 企業行動と費用曲線 (6) 企業の長期費用曲線と市場の長期供給曲線 (7) 完全競争市場と効率性
 (8) 不完全競争市場 (9) 市場機構の限界

【評価方法】 期末試験、中間試験、小テストの結果を総合的に評価する。

【テキスト】 西村和雄『ミクロ経済学入門 (第2版)』岩波書店、1995年

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|-----------------|----|----|-------|----|---------|
| 51202 51942 | ミクロ経済学 経済原論Ⅰ | 必 | 2 | 各4 | 前期 | 井上 知子 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【副題】 ミクロ経済学の基礎理論を習得する

【講義内容】 以下に挙げる項目の基礎的考え方を身につける。
 主体行動（消費者行動・生産者行動）
 一般均衡
 市場の失敗
 完全競争と不完全競争

【講義計画】 授業は基本的に下記のテキストに沿って進める。
 ①経済循環
 ②消費の決定(消費者の効用極大化行動)
 ③需要関数
 ④消費者余剰
 ⑤企業と生産活動(企業の効用極大化行動)
 ⑥費用構造
 ⑦独占
 ⑧複占・寡占
 ⑨一般均衡
 ⑩経済厚生
 4回に1度くらいの割合で、講義時間の最後に、理解度調査を兼ねた小テストを行う。しかし、予告はしないつもりである。

【評価方法】 小テスト及び2回の定期試験によって評価する。

【テキスト】 奥口孝二・酒井泰弘・市岡修・永谷裕昭「ミクロ経済学」有斐閣

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 | | |
|----------------|-----------------|----|----|----|-------|------|------|----|
| 51211 51951 | マクロ経済学 経済原論Ⅱ | 必 | 2 | 各4 | 後期 | 花井 敏 | | |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 | 不可 |

【副題】 マクロ経済学の基礎

【講義内容】 マクロ経済学の基礎を講義する。

【講義計画】 1. マクロ経済学とは
 2. 経済循環と国民所得勘定
 3. 国民所得決定の理論
 4. 消費関数
 5. 投資関数
 6. 貨幣と金融市場
 7. IS-LM分析
 8. 金融政策と財政政策
 9. 総需要と総供給
 10. 国際マクロ経済学

【評価方法】 中間テスト50点、期末テスト50点。

【テキスト】 小川一夫・他著『マクロ経済学』有斐閣、1991年。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 | | |
|----------------|-----------------|----|----|----|-------|-------|------|----|
| 51212 51952 | マクロ経済学 経済原論Ⅱ | 必 | 2 | 各4 | 後期 | 吉本 佳生 | | |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 | 不可 |

【副題】 現実の経済問題について分析するための基礎理論を学びましょう。

【講義内容】 マクロ経済学の基本概念と基礎理論を講義します。

- 【講義計画】
1. マクロ経済学の考え方
 2. 国民所得の決定理論
 3. 消費と貯蓄
 4. 貨幣市場と証券市場
 5. IS-LM分析
 6. 労働市場とAD-ASモデル
 7. マンデル=フレミング・モデル

【評価方法】 11月の授業時間中に中間試験を実施し、期末試験と合わせた2回の試験で評価します。

【テキスト】 辻正次・田岡文夫・吉本佳生著『演習マクロ経済学』（日本評論社、1997年、3200円+税）

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------|-------|-----|-----|-------|-----|---------|
| 51221 | 経済演習Ⅲ | 必 | 3 | 4 | 通年 | 川崎 勝 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 日本経済史の研究

【講義内容】 経済学は現在の時点で生起している経済の動向を分析する学問である。経済史は、過去の時点で生起した事象を、その時点の資料にもとづいて分析するもので、経済学と歴史学の中間、あるいはその双方にまたがった学問といえる。過去の事柄＝歴史を研究することは、歴史学的手法に依拠しなければならず、それは、資料（文献、統計、文書、記録など）にもとづいて、その時代に起こった事柄を再構築することにある。そのためには、まず資料を正確に読みとり、それが書かれた背景を探り、何のために書かれたものか、またそれは何を意味しているのか、などについて考えていくことになる。

経済演習Ⅲでは、1850年代のはじめ、ペリー来航の前夜から、明治維新、自由民権運動を経て、日本に資本主義が確立していく時代を中心にして、その時期に書かれた資料を読み解いていくことを通して、経済史（歴史）の勉強の仕方を身につけていくことを課題とする。

それと同時に、2000年度に継続される経済演習Ⅳでの卒業論文のテーマをできるだけ早く（夏休中に）決める。

- 【講義計画】
1. 初回に、テキストの1～2項を、報告者（3名1グループ）に割り当てる。
 2. 討論資料となるレジюмеを配布する。資料の要約、内容の紹介、背景の解説、意義の説明を行ない、問題点を指摘して、討論する。
 3. 討論は、まずコメンテーター（次回の報告者3名のグループ）が、全体にわたる質問をし、報告者の問題点に考えを述べる。
 4. 次いで、全員で、質疑応答・討論をする（時間内に必ず1回以上の発言を義務づける）。
 5. 司会進行は、運営委員の指示によって進める。
 6. 報告者ではない学生も、毎時間レジюмеを用意して、討論での問題点をメモし、時間の最後に運営委員に提出する。レジюмеの提出で出席とみなす。
 7. 演習は、学生生活の中心であるから、すべてに最優先され、やむを得ない場合を除き欠席は認めない（無断で2回連続欠席は、その時点でF）。
 8. 演習は、学生が自主的に運営するものであるから、初回に各委員を選出し、1年間の進め方（ゼミ運営、サブゼミ、合宿、レクリエーション、コンパ、その他）について、十分に討論してもらおう。

- 【評価方法】
1. 演習での報告・発言・レジюмеの内容。
 2. 前期・後期終了時に指示する課題についてのレポート。

【テキスト】 歴史学研究会編『日本史史料〔4〕近代』岩波書店、1997年

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------|-------|-----|-----|-------|-----|---------|
| 51222 | 経済演習Ⅲ | 必 | 3 | 4 | 通年 | 近藤 仁 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 計量経済分析の基礎

【講義内容】 現実のデータを基礎に経済的な仮説を検証する手法を研究すること、およびコンピュータを用いて実証的に分析することが計量経済学の学問領域である。前期に計量モデルの特性や経済データの基礎、および計量経済分析の基礎的理論を習得し、後期には計量経済分析用コンピュータ・ソフトウェア「TSP」を利用した小グループによる実証分析を通して、分析結果の評価方法や実際の分析において生じる問題の解決方法を学習する。

【講義計画】 1) 経済データ種類と特性およびデータの加工
 2) 計量経済モデル
 3) 最小二乗推定法
 最小二乗推定量とその統計的特性
 推定結果の評価（説明力、有意性検定、自己相関の有無等）
 4) 推定手法の拡張
 多重共線性・ダミー変数・構造変化
 一般化最小二乗法の利用
 予測とシミュレーション
 等について学習する。
 また、グループによる実証研究は授業と並列して行う事により、その研究成果は『南山学生論集』へ投稿する。

【評価方法】 出席は言うにおよばず、実証研究による貢献度と試験で総合的に評価する。

【テキスト】 山本 拓著『計量経済学（新数学ライブラリ12）』（新世社、1995）

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51223 | 経済演習Ⅲ | 必 | 3 | 4 | 通年 | 水谷 重秋 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 環境経済学入門

【講義内容】 長良川河口堰に象徴されるダムと環境破壊の問題、藤前干潟問題、自動車公害、ゴミ問題、原発と環境破壊の問題など、いま日本の各地で起こっている具体的な環境問題を取り上げて、その原因と対策を考えてゆく。

【講義計画】 ①数個のグループを作り、各グループごとに課題を決めて研究する。研究の結果はゼミで報告して、全員で討論する。②学年末にグループごとに修了論文を提出する。③春と夏に2泊3日の合宿を行う（春は新3、4年合同合宿）。④神戸大学と交歓討論会を行う。

【評価方法】 毎回のゼミにおける活動状況をみて総合的に評価する。

【テキスト】 ゼミ共通のテキストは使用しない。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51224 | 経済演習Ⅲ | 必 | 3 | 4 | 通年 | 村松 久良光 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 仕事の経済学—情報化に伴う働き方の変化

【講義内容】 最近急速に進んできた情報化技術、特に、ネットワーク技術の進展によって、事務・技術職の働き方と意識がどのように変わっていくのか、このテーマを題材にして、現代における仕事のあり方を考えていきたい。演習では、クロス集計などをコンピュータで行う手法を学びながら、このようなテーマで行われたアンケートデータを材料にして分析し、修了論文にまとめていく。

【講義計画】 ・前期は、パソコンの使い方を復習し、SPSSXのプログラムを習い、主にクロス集計表の作成を学ぶ。
 後期は、アンケート質問紙にしたがってテーマを設定し、修了論文を作成する。

- ・3年の夏に2泊3日で合宿を行う。
- ・4年生の卒業論文のテーマには、海外のある国の労働事情を調べることを勧めている。4年生になる前の春の合宿でそのテーマの決定を行う。

【評価方法】ゼミへの参加度と発表、レポートの提出、修了論文で行う。

【テキスト】『J 棟利用の手引き』、『新版 SPSSX I 基礎編』（図書館の本を利用）
中部産業・労働政策研究会『情報化技術革新による事務・技術職の働き方の変質と労使の対応』（中部産業・労働政策研究会、1997、非市販）

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51225 | 経済演習Ⅲ | 必 | 3 | 4 | 通年 | 花井 敏 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】日本経済のグループ学習

【講義内容】本ゼミナールでは「日本経済のマクロ分析」を勉強しますが、今年度は、実際の問題に取り組みながら、日本経済に関する「問題発見」、「問題分析」、「問題解決」のテクニックをグループ学習します。
たとえば、「体育会系クラブは就職に有利か」、「銀行の給料はなぜ高いのか」、「日本の出生率はなぜ低下しているのか」、「ガソリンの値段はなぜ横並びか」、といった具体的な（経済）問題を取り上げ、こうした問題にどのように取り組み、いかにして最終的な成果にまで到達するか、といった一連のプロセスを学びます。

【講義計画】まず前期では、4、5人からなるグループを作り、私が与える（比較的やさしい）問題に対して、どのようにアプローチして最終的な成果にまで到達するかにゆっくりと取り組みます。夏休みの合宿で各グループの成果を報告し合い、レポートにまとめます。
後期にはグループの編成替えを行ったうえで、各グループでそれぞれの問題、課題を発見してもらい、さらに、問題分析、問題解決へと進み、最後にレポートにまとめてもらいます。

【評価方法】ゼミ出席、調査プロジェクトの成績、ゼミでの討論、などを総合的に評価します。

【テキスト】特定のテキストは使いません。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51226 | 経済演習Ⅲ | 必 | 3 | 4 | 通年 | 野村 信廣 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】日本と世界の諸問題を考える

【講義内容】日々、生起する日本経済の重要問題を考え、具体的、計量的に把握していく。その後、各自関心あるテーマ（身近な問題も大歓迎）について、どう考え（理論構成）、どう作業（統計知識と分析道具）、どうまとめる（構想力と表現力）かを勉強していく。

【講義計画】各自が課題を決めて研究、レジュメを作成、発表、討論する。学年末に修了論文（卒業論文の中間報告に相当）を提出する。

【評価方法】作業状況、発表内容、質疑応答、出席状況および学年末の修了論文等から総合的に評価する。

【テキスト】当方で用意する資料（新聞の雑誌記事など）をベースに進める。そのための参考資料として、河合正弘・武蔵武彦・八代尚宏著「経済政策の考え方」（有斐閣）を各自、用意する。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|--|----|----|-------|----|---------|
| 51227 | 経済演習Ⅲ | 必 | 3 | 4 | 通年 | 大谷津 晴夫 |
| 他の科目との関連 | 社会保障論A・B、公共経済学Ⅰ・Ⅱ、仕事の経済学Ⅰ・Ⅱ、労働法、財政学Ⅰ・Ⅱ | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 日本の公的年金制度の改革問題

【講義内容】 日本の公的年金制度の現状と問題点を探る。

【講義計画】 報告当番とコメント当番を決めて、討議を中心に進める。年度末には終了論文を提出してもらう。

【評価方法】 出席、発表、レポートを総合的に評価して成績をつける。

【テキスト】 『年金白書』

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51228 | 経済演習Ⅲ | 必 | 3 | 4 | 通年 | 櫻井 健吾 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 ヨーロッパ経済史

【テキスト】 1) 前期：ウォーラーステイン『近代経済システム（1740－1820年）：大西洋革命の時代』名古屋大学出版会、1997年
2) 後期：J. R. ヒックス『経済史の理論』講談社（学術文庫）

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51229 | 経済演習Ⅲ | 必 | 3 | 4 | 通年 | 山田 正次 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 国際経済学分野で、貿易収支および経常収支不均衡の問題を検討する。

【講義計画】 テキストに従い、グループごとの発表と討議を行う。ゼミは週二回で、ゼミ生の関心に従って国際経済のカレントトピックスをも議論する。

【評価方法】 普段の報告と質疑応答、そして学年末のレポート等から総合評価する。

【テキスト】 クルグマン・オブズフェルド（著）石井その他（訳）『国際経済Ⅱ・国際マクロ経済学』（新世社）

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51230 | 経済演習Ⅲ | 必 | 3 | 4 | 通年 | 荒井 好和 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 金融論

【講義内容】 この演習の柱の一つは毎年秋（12月上旬）におこなわれる他大学との交換討論会である。討論会ではそれぞれの大学が自由に決めたテーマを複数用意し、議論がおこなわれる。
討論会に向けて、前期ではまず、学生諸君に金融の領域で現実何が起きているのかを知ってもらうために、日本の金融システムの変化に関する書物を取り上げ、金融に対する関心を高めたい。これはいわば導入部である。ついで、やや理論的な書物を用いて、金融の諸問題を扱うための道具の修得をめざしたい。後期では、これらの準備のもとに討論のためのテーマを選定し、論文に仕上げる。

【講義計画】 前期：
現時点でどのテキストを使うか確定しているわけではないが、さし当たり、以下の書物を候補として考えている。
数阪孝志 編「日本型金融システムの転機」東京大学出版会、1998年。
日向野幹也・金谷貞男・柳田辰雄 著「金融論」新世社、1994年。
必要に応じてジャーナルの論文を適宜使用する。
後期：
夏期休暇前に討論会のためのテーマを決め、休暇中に討論に向けた準備をする。後期は4年生を交えて発表を繰り返し、レジュメ、論文を作成する。

【評価方法】 ゼミでの報告、発言、討論会のための論文作成などで評価。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51231 | 経済演習Ⅲ | 必 | 3 | 4 | 通年 | 加藤 尚史 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 応用経済学

【講義内容】 都市や地域、環境にかかわる問題を取り上げて、経済分析を加える。演習Ⅲにおいては、方法論を学ぶ。特に計量的な手法の習得を目指す。演習Ⅳでは、課題を選択したうえで研究を進め、卒業論文として成果をまとめる。

【講義計画】 テキストの内容に関して、担当者が報告し、全員で議論することにした。

【評価方法】 演習への参加の状況などによって評価する。

【テキスト】 以下の文献のうちの「いくつか」を利用する「予定である」。
Arthur S. Goldberger (1998). *Introductory Econometrics*, Harvard University Press.
Thad W. Mirer (1995). *Economic Statistics and Econometrics* (3rd ed.), Prentice-Hall, Inc..
糞谷千風彦・平田英明・斎藤崇・大津泰介 (1997). 『パソコンによる数量分析』多賀出版。
縄田和満 (1997). 『TSPによる計量経済分析入門』朝倉書店。
中村良平・田淵隆俊 (1996). 『都市と地域の経済学』有斐閣。
植田和弘・岡敏弘・新澤秀則 [編] (1997). 『環境政策の経済学』日本評論社。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51232 | 経済演習Ⅲ | 必 | 3 | 4 | 通年 | 阪本 俊生 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 消費理論の基礎を学ぶ

【講義内容】 消費社会における諸現象を考察するための基礎的な理論を学習する。ボードリヤール等の社会学理論をゼミナール形式で読むことで、記号論的な視角から経済現象をとらえるやり方を学ぶ。この学習を通じて、抽象的に理論的な著作の読解を練習するとともに、流行や広告、大量消費、操作された欲望など消費社会における諸現象を探求し、明らかにするための基本的な視座の習得を目指す。

【講義計画】 二名から三名の小グループにわけ、グループ毎にテキストに関する発表を毎回行なってもらい、レポートは年に四回提出。

【評価方法】 出席、報告、研究レポートから評価する。

【テキスト】 J. ボードリヤール、『消費社会の神話と構造』、紀伊国産書店

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51233 | 経済演習Ⅲ | 必 | 3 | 4 | 通年 | 上田 薫 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 公共問題の経済分析

【講義内容】 現代の社会的経済的問題を経済学の観点からどのように分析することが出来るかを知り、各自が関心のあ
る社会問題を、経済学の知識を応用しながら分析していく出発点にしたい。

【講義計画】 最初に下記の教科書に出てくるテーマごとに、関連資料・参考書などを併用しつつグループ単位でレ
ポートしてもらう。後半では各自興味を持ったテーマで修了レポートを準備していく。

【評価方法】 出席、報告の仕方、修了レポートで評価する。

【テキスト】 ダグラス・ノース、ベンジャミン、ミラー著
「経済学で現代社会を読む」 日本経済新聞社 1995年

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|--------------------|----|----|-------|----|---------|
| 51234 | 経済演習Ⅲ | 必 | 3 | 4 | 通年 | 吉本 佳生 |
| 他の科目との関連 | 平行して「国際金融論」を受講すること | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 パソコンを活用して、為替レート・金利・景気の動向を分析しましょう。

【講義内容】 為替レート・金利・景気などの動向を論理的に分析するための能力を磨くことが、この演習の目的です。
そのための道具として、必要に応じて、ExcelやPower Pointなどのパソコン・ソフトを活用します。

【講義計画】 前期で、基礎となる理論・知識を修得してもらい、後期は、パソコンを利用しながら、各自の興味・
能力に応じたテーマの研究をしてもらいます。なお、前期の授業内容は、学生と協議の上で決定します。

【評価方法】 平常点で評価しますが、必要に応じて課題の提出を求めます。

【テキスト】 未定。必要があれば指定します。

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51235 | 経済演習Ⅲ | 必 | 3 | 4 | 通年 | 林 尚志 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 東アジア経済の“奇跡” vs “危機”の真相を探る

【講義内容】 近年、韓国、タイ、マレーシア等をはじめとする東アジア諸国は日本経済との関係を深めながらめざま
しい経済発展を遂げ、いわゆる「東アジアの奇跡」として世界的な注目を浴びていたが、97年7月にタ
イで発生した通貨危機を発端とする「アジア通貨・経済危機」が拡大する中、現在、これらの国々は深刻
な経済・社会問題に直面している。
本演習Ⅲでは、「開発経済学」において議論されている種々のトピックを学びながら、東アジア諸国が

成し遂げた“奇跡”、並びに現在直面しつつある“危機”の両面に対する理解を深め、これら諸国が今後課題を解決していく上での手がかりを探ることを目的とする。

- 【講義計画】 (0) 事前レポート： NHK市民大学での著者の講義をまとめた渡辺（1989）を読み、別紙を参照しながら事前レポートを作成した上で、4月5日（月）までに林のメールボックスに提出する。
 (1) 入門編： まず、事前レポートも活用しながら渡辺（1989）を読み、東アジア経済が発展を遂げる上での背景、並びに発展の基本的なメカニズムを理解する。
 (2) 基礎編： その上で大野・桜井（1997）を読み、開発経済学で議論されている種々のトピックを学びながら、近年遂げられてきた“東アジアの奇跡”の諸相をとらえる。
 (3) 応用編： 最新の諸文献、新聞、雑誌等を活用し、現在、これら諸国がいかなる危機に直面し、それをいかにして乗り越えようとしているのかを探る。
- 【評価方法】 (1) 出席を重視し、(2) 発表、質問等、演習への参加姿勢、(3) 適宜行われる小テスト、ならびに、(4) 各係としてのゼミ活動への貢献度に基づいて評価を行う。
- 【テキスト】 (1) 渡辺利夫著、「アジア経済をどう捉えるか」NHKブックス568、日本放送出版協会、1989年、800円。
 (2) 大野健一、桜井宏二郎著、「東アジアの開発経済学」有斐閣アルマ、有斐閣、1997年、2000円。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|---------------------|----|----|----|-------|------|
| 51252 51982 | 経済演習Ⅳ 演習Ⅳおよび卒業論文 | 必 | 4 | 各4 | 通年 | 近藤 仁 |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 不可 |
| | | | | | 重複履修 | 不可 |

【副題】 計量経済分析の実際と応用

【講義内容】 3年次で学習した計量モデルの分析手法を、卒業論文で実証研究として実際に取り入れる場合の、データの収集や加工に関する問題点やモデルビルディングにおける問題点等について解決方法を考えるとともに、より高度な推定手法についても学習し、充実した卒業論文となるように指導する。

【講義計画】 個人の研究発表を基礎に、モデルやデータ、推定結果における問題点や解決方法について全員で討議する。その結果を受けて、実証研究における知識の充実を図るとともに、現実に対応できるように具体的なモデル推定改良手法やより高度な推定方法を学習し、卒業論文への応用について指導する。

【評価方法】 出席は言うにおよばず、研究発表と議論への参加度・貢献度で総合的に評価する。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|---------------------|----|----|----|-------|-------|
| 51253 51983 | 経済演習Ⅳ 演習Ⅳおよび卒業論文 | 必 | 4 | 各4 | 通年 | 水谷 重秋 |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 不可 |
| | | | | | 重複履修 | 不可 |

【副題】 経済政策論

【講義内容】 卒業論文作成の個別指導：毎週のゼミの時間と個別面談を通じて各自の卒業論文を完成させる。

【講義計画】 毎週2人ずつ卒業論文の経過を報告し、ゼミ生からの質問や意見に答えつつ論文を完成させていく。

【評価方法】 ゼミナールでの活動状況や卒業論文の出来具合などを見て総合的に判断する。

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|---------------------|-----|-----|------------|-----|---------------|
| 51254 51984 | 経済演習Ⅳ 演習Ⅳおよび卒業論文 | 必 | 4 | 各4 | 後期 | 中矢 俊博 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 不可 | 重 複 履 修 不可 |

【講義内容】 各自の選定したテーマに従い、卒業論文を完成させることが、本演習の課題である。

【講義計画】 毎週3人ずつ卒論の経過報告を行い、他のゼミ生からの質問等に答える。それをもとに卒論を完成していく。

【評価方法】 報告内容と卒論の出来具合との総合評価

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|---------------------|-----|-----|------------|-----|---------------|
| 51255 51985 | 経済演習Ⅳ 演習Ⅳおよび卒業論文 | 必 | 4 | 各4 | 通年 | 大谷津 晴夫 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 不可 | 重 複 履 修 不可 |

【講義内容】 前期は特定のテキストを輪読し、後期は卒論の発表にあてる。

【評価方法】 出席、発表、卒論を総合的に評価して、成績をつける。

【テキスト】 未定

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|--------------|-------|-----|-----|------------|-----|---------------|
| 51256 | 経済演習Ⅳ | 必 | 4 | 4 | 通年 | 櫻井 健吾 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 不可 | 重 複 履 修 不可 |

【副 題】 ヨーロッパ経済史

【講義内容】 卒論発表

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|--------------|-------|-----|-----|------------|-----|---------------|
| 51257 | 経済演習Ⅳ | 必 | 4 | 4 | 通年 | 山田 正次 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 不可 | 重 複 履 修 不可 |

【講義内容】 国際経済の分野で各自の選んだテーマに従って、順次、報告と討議を行い、卒業論文の作成を指導する。

【評価方法】 普段の発表と卒業論文等から評価する。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|---------------------|----|----|-------|----|---------|
| 51258 51988 | 経済演習Ⅳ 演習Ⅳおよび卒業論文 | 必 | 4 | 各4 | 通年 | 荒井 好和 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 金融・国際金融論

【講義内容】 各自が選んだテーマについて、研究報告と共同討議を重ね、卒業論文作成の指導を行なう。

【講義計画】 ゼミナールでの報告内容と卒業論文で評価する。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51259 | 経済演習Ⅳ | 必 | 4 | 4 | 通年 | 阪本 俊生 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 消費社会の実態の解明

【講義内容】 経済演習Ⅲにおいて習得した理論を用いて、現代の日本における消費に関連する現象を学生各自の問題関心や視点から分析あるいは調査を行う。
その結果を卒業論文としてまとめる。

【講義計画】 前期の前半は、卒業論文のテーマ、計画の作成、およびテーマへのアプローチの仕方や調査方法などを指導する。
前期の後半から卒論の作成に取りかかり、各自の研究の計画発表を行う。
後期は、その経過報告およびその吟味と指導をおこなう。

【評価方法】 卒業論文

【テキスト】 未定

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51260 | 経済演習Ⅳ | 必 | 4 | 4 | 通年 | 上田 薫 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 前年度に各自でまとめた研究内容をもとに、研究及び論文作成の指導を行う。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51261 | 経済演習Ⅳ | 必 | 4 | 4 | 通年 | 村松 久良光 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 仕事の経済学、各国の労働事情

【講義内容】 各自が選んだテーマについて、研究報告と共同討議を重ね、卒業論文作成の指導を行う。

【評価方法】 卒業論文

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51262 | 経済演習Ⅳ | 必 | 4 | 4 | 通年 | 川崎 勝 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 日本経済史の研究

【講義内容】 前期は、演習Ⅲの継続として、明治前期の歴史の主要なテーマについて、テキストを読んでいく。同時に、適宜、卒業論文のテーマについての中間報告を求め、論文作成の指導を行う。
後期は、卒業論文のテーマの報告を中心とし、あわせて自由課題について討議研究する。

【評価方法】 演習での報告・発言・レジュメの内容、前期・後期終了時に指示する課題のレポート、卒業論文、出席状況を総合的に評価する。

【テキスト】 歴史学研究会編『日本史史料〔4〕近代〕岩波書店、1997年

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51263 | 経済演習Ⅳ | 必 | 4 | 4 | 通年 | 野村 信廣 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 経済統計で考える日本・世界経済

【講義内容】 各自の強い関心のあるテーマに関して、経済統計をツールにして卒業論文を指導、完成させていく。

【講義計画】 各自の研究作業結果の発表を基礎に、全員で討議する。各自はその結果を参考に研究作業を深めていくと同時に、討議に参加することで、同時代の仲間の関心事や経済の重要課題に関する知識を広めていく。

【評価方法】 作業状況、発表内容、質疑応答、出席状況および卒業論文の成果等を勘案し、総合的に評価する。

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51264 | 経済演習Ⅳ | 必 | 4 | 4 | 通年 | 吉本 佳生 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 パソコンを活用して、為替レート・金利・景気の動向を分析しましょう。

【講義内容】 経済演習Ⅲの内容を基礎としながら、各自が設定したテーマについて研究・発表してもらいます。

【講義計画】 前期には、各自の研究テーマと分析の枠組について発表してもらい、後期には、それぞれのテーマの研究をすすめて完成させてもらいます。

【評価方法】 平常点と卒業論文の内容で評価します。

【テキスト】 なし。

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|-------|----|----|-------|----|---------|
| 51265 | 経済演習Ⅳ | 必 | 4 | 4 | 通年 | 加藤 尚史 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 応用経済学

【講義内容】 演習Ⅳでは、課題を選択したうえで、演習Ⅲにおいて習得した計量的な手法を用いつつ研究を進め、卒業論文として成果をまとめる。

【講義計画】 研究の内容に関する報告を受けて、全員で議論することにした。

【評価方法】 卒業論文の内容や演習への参加の状況などによって評価する。

【テキスト】 研究テーマに応じて適時選ぶこととする。

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------------|---------|-----|-----|-------|----------|---------|
| 51401 51411 | 経済英語Ⅰ・Ⅱ | 選・必 | 2~4 | 各2 | 前期 後期 | 山田 正次 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 国際経済学の基本的考え方を平易に解説した下記のテキストブックを輪読し、講述を加える。

【講義計画】 テキストの各章は次の通り
 Chap.1 The Principle of Trading
 Chap.2 Supply, Demand, and Trade
 Chap.3 The Terms of Trade
 Chap.4 Trade Restrictions
 Chap.5 Economic Integration
 Chap.6 Trade, Growth, and Development
 Chap.7 The Multinational Corporation
 Chap.8 The Balance of International Payments

【評価方法】 出席と定期試験の結果を総合して評価する

【テキスト】 K.Friedrich, International Economics : Concepts and Issues. (初日に受講者へコピーを配布する。)

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------------|---------|-----|-----|-------|----------|-------------|
| 51402 51412 | 経済英語Ⅰ・Ⅱ | 選・必 | 2~4 | 各2 | 前期 後期 | Muncada, F. |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 The class offers opportunity to learn basic Economic topics using English texts. The emphasis is on reading and writing practice. Speaking opportunity depends on the class size.

【講義計画】 First, everybody reads the English text. After reading, difficult words and key concepts are explained in English. Students then try to use selected phrases or words in a sentence or two. Students also write themes on different subject matters.

【評価方法】 Assessment is based on class participation, assignments, quizzes and reports.

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|---------|-----|-----|-------|----------|------------|
| 51403 51413 | 経済英語Ⅰ・Ⅱ | 選・必 | 2~4 | 各2 | 前期 後期 | Easley, K. |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【副題】 ECONOMIC DEVELOPMENTS IN THE WORLD

【講義内容】 A survey of developments in major world economies (especially Japan), Different kinds of capitalism will be identified and examined historically, and their relationship to the cultural values of particular countries will be explored a little.

【テキスト】 No set text. Video and handouts will be used.

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|---------|-----|-----|-------|----------|-------------|
| 51404 51414 | 経済英語Ⅰ・Ⅱ | 選・必 | 2~4 | 各2 | 前期 後期 | Mansell, W. |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 This is an activity-based class in Business English. Active participation is required from all students. The class will provide students with a basic knowledge of international business culture and give students a chance to practice the basic sentence patterns they learn in class. The course will also provide students with the necessary skills to conduct typical business activities such as negotiations, presentations and designing business strategy, etc. This is part two of a two part course. Part one is business English I & II.

【講義計画】 The focus of this course will be directed on the four main areas of Business English competency: Reading, Writing, Listening and Speaking; with special emphasis on Listening. Each business situation based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson. Students are strongly advised to bring a dictionary, pencils and paper to class. Speaking activities will consist of pair work and group activities.

【評価方法】 Student assessment will be based on attendance, daily participation and daily quizzes. Passing grades will be: A, B, or C. Student with more than 3 unexcused absences will be withdrawn from the class.

【テキスト】 The text for the class will be Meeting Objectives-Activity Book, a video-based activity workbook. (V. Hollet, Oxford University Press, 1992)

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|---------|-----|-----|-------|----------|------------|
| 51405 51415 | 経済英語Ⅰ・Ⅱ | 選・必 | 2~4 | 各2 | 前期 後期 | Tanner, P. |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 This is an activity-based class in Business English. Active participation is required from all students. The class will provide students with a basic knowledge of international business culture and give students a chance to practice the basic sentence patterns they learn in class. The course will also provide students with the necessary skills to conduct typical business activities such as negotiations, presentations and designing business strategy, etc. This is part two of a two part course. Part one is business English I & II.

【講義計画】 The focus of this course will be directed on the four main areas of Business English competency: Reading, Writing, Listening and Speaking; with special emphasis on Listening. Each business situation based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson. Students are strongly advised to bring a dictionary, pencils and paper to class. Speaking activities will consist of pair work and group activities.

【評価方法】 Student assessment will be based on attendance, daily participation and daily quizzes. Passing grades will be: A, B, or C. Student with more than 3 unexcused absences will be withdrawn from the class.

【テキスト】 The text for the class will be Meeting Objectives-Activity Book, a video-based activity workbook. (V. Hollet, Oxford University Press, 1992)

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|----------------|-----|-----|-------|----------|---------|
| 51420 51430 | 外書講読Ⅰ・Ⅱ（世界人口史） | 選・必 | 2～4 | 各2 | 前期 後期 | 櫻井 健吾 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【評価方法】 世界人口史に関する概説書の講読

【テキスト】 M. Livi-Bacci, A Concise History of World Population, Blackwell, 1992.
 前期： Chapter 3: Land, Labor and Population
 後期： Chapter 4: Toward Order and Efficiency: The Recent Demography of Europe and the Developed World.

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|----------------|-----|-----|-------|----------|---------|
| 51421 51431 | 外書講読Ⅰ・Ⅱ（日本経済論） | 選・必 | 2～4 | 各2 | 前期 後期 | 花井 敏 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 前期は、海外のポピュラーな雑誌 Time, Newsweek などに現れた日本関連の記事を読みます。後期は、経済関係の興味ある英文論文をいくつか取り上げ、熟読します。

【講義計画】 各部分の日本語訳分担をあらかじめ決めておき、その解説・討論という形をとる。

【評価方法】 出席、発表、期末テストを総合的に評価する。

【テキスト】 開講時にテキスト・プリントを配布する。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|----------------|-----|-----|-------|----------|---------|
| 51422 51432 | 外書講読Ⅰ・Ⅱ（環境経済学） | 選・必 | 2～4 | 各2 | 前期 後期 | 水谷 重秋 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【副題】 環境経済学入門

【講義内容】 下記のテキストを読むことにより、環境問題に経済学的側面から接近する。特に、維持可能な発展の観点から環境問題を考察する。テキストの第1章を紹介すると次のようである。

1. Introduction

- The idea of sustainable development
- Sustainable development as a bequest to the future
- Economy and environment
- Valuing the environment
- Anticipatory and reactive environmental policy
- The challenge of global pollution
- Policy response
- Summarizing the sustainable development approach
- Growth versus the environment

- 【講義計画】 各自がパラグラフ単位で分担することとし、訳した部分を1週間前にEメールで私あてに送り、講義当日、全員の訳を手元において本文の内容を検討する。したがって、予備登録者は、授業が始まるまでにEメール送信を修得しておかねばならない。
- 【評価方法】 分担部分の発表と期末テストを総合的に評価する。
- 【テキスト】 Pearce, D., A. Markandya and E. B. Barbier, *Blueprint for a Green Economy*, Earthscan Publications, 1989.
- 【注 意】 4年次生は、確実に授業に出る意思のある人以外は予備登録しないこと。

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|------------------|-----|-----|-------|----------|------------|
| 51423 51433 | 外書講読Ⅰ・Ⅱ (仕事の経済学) | 選・必 | 2~4 | 各2 | 前期 後期 | 村松 久良光 |
| 他の科目との関連 | 仕事の経済学 | | | 他学科履修 | 不可 | 重 複 履 修 不可 |

- 【副 題】 日本と米国における仕事と賃金の比較
- 【講義内容】 日本の雇用慣行は「終身雇用」・「年功賃金」と特徴づけられ、流動的で契約型の米国の雇用慣行とよく対照される。このような通念がどの程度実体に即しているのか、最近刊行された下記の著書はデータに基づいてていねいに比較検討している。その著書を読んで内容を理解するとともに、仕事に関する英語表現を学んでいきたい。
- Brown, C. et al, *Work and Pay in the United States and Japan*, New York: Oxford Univ. Press, 1997
- 【講義計画】 英語表現、用語に慣れるために、1文章ずつ受講者にランダムにあて、訳してもらおう。したがって進度は遅いが、毎回、大勢の人にあたり、予習が必要となる。
本のうち前期は、Chap. 1 Comparing Employment Systems
2 Security
後期は、3 Employee Involvement and Training
4 Pay Systems, Career Paths, and Earnings Inequality
- 【評価方法】 ・出席、平常点および各期末の定期試験により総合的に評価する。
- 【テキスト】 ・教材として一部ずつ配布する。

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|-----------------|-----|-----|-------|----------|------------|
| 51427 51437 | 外書講読Ⅰ・Ⅱ (政治経済学) | 選・必 | 2~4 | 各2 | 前期 後期 | 上 田 薫 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重 複 履 修 不可 |

- 【講義内容】 下記の教科書を使用し、共有財産の使用権、新しく生じた財の所有権、税負担などにおける分配の公正について、どのような考え方が見えるかを見て行きたい。
- 【講義計画】 レポーターに内容を要約してもらいながら、難しい部分については適宜解説を加えていくという形式をとる。どの章を読んでいくかは講義の際に指示する。
- 【評価方法】 レポートの仕方及び期末試験で評価する。
- 【テキスト】 H. P. Young *Equity* 1994年

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|-----------------|-----|-----|------------|----------|---------------|
| 51428 51438 | 外書講読Ⅰ・Ⅱ（マクロ経済学） | 選・必 | 2～4 | 各2 | 前期 後期 | 皆 川 正 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 不可 | 重 複 履 修 不可 |

【講義内容】 本講義の目的は、英語で書かれたマクロ経済に関する文献を読みこなすことができるようにすることである。講義に使用するテキストはこちらで用意する。

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|-----------------|-----|-----|------------|----------|---------------|
| 51429 51439 | 外書講読Ⅰ・Ⅱ（ミクロ経済学） | 選・必 | 2～4 | 各2 | 前期 後期 | 藪 内 繁 己 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 不可 | 重 複 履 修 不可 |

【副 題】 英語で学ぶミクロ経済学

【講義内容】 英語で書かれたやさしいミクロ経済学のテキストを輪読するとともに、必要に応じその内容を解説する。

【講義計画】 講義計画は概略次のとおりである。

1. 経済学の分析用具
2. 需要曲線
3. 供給曲線
4. 市場均衡
5. 需給分析の応用

【評価方法】 授業における平常点と期末試験により総合的に評価する。

【テキスト】 Lipsey-Chrysal, Positive Economics, Oxford U. P., 1995.（プリントを用意する）

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|-----------|-----|-----|------------|----------|---------------|
| 51441 51451 | ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ | 選・必 | 2～4 | 各2 | 前期 後期 | Easley, K. |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 可 | 重 複 履 修 不可 |

【副 題】 BUSINESS ENGLISH

【講義内容】 The course will cover English communication skills in business situations. The focus will be on speaking and listening practice: information exchange, making contact, meetings, business socialising, describing trends, etc.

【テキスト】 Business Objectives (Oxford University Press. New edition)

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|-----------|-----|-----|------------|----------|---------------|
| 51442 51452 | ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ | 選・必 | 2～4 | 各2 | 前期 後期 | Mansell, W. |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 可 | 重 複 履 修 不可 |

【講義内容】 This is an activity-based class in Business English. Active participation is required from all students. The class will provide students with a basic knowledge of international business culture and give students a chance

to practice the basic sentence patterns they learn in class. The course will also provide students with the necessary skills to conduct typical business activities such as negotiations, presentations and designing business strategy, etc.

This is part two of a two part course. Part one is business English I & II.

【講義計画】 The focus of this course will be directed on the four main areas of Business English competency: Reading, Writing, Listening and Speaking; with special emphasis on Listening. Each business situation based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson.

Students are strongly advised to bring a dictionary, pencils and paper to class. Speaking activities will consist of pair work and group activities.

【評価方法】 Student assessment will be based on attendance, daily participation and daily quizzes. Passing grades will be: A, B, or C. Student with more than 3 unexcused absences will be withdrawn from the class.

【テキスト】 The text for the class will be Meeting Objectives-Activity Book, a video-based activity workbook. (V. Hollet, Oxford University Press, 1992)

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|-----------|-----|-----|----|----------|-----------------|
| 51443 51453 | ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ | 選・必 | 2~4 | 各2 | 前期 後期 | 松井 清治 |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 可 重複履修 不可 |

【講義内容】 企業の国際化が益々進んでいる今日、日本人にとって国際的に通用する重要な能力の一つとして、語学力が挙げられる。特に英語は、国際的な情報ネットワークの発達によって、一段と世界の標準語になっている。言語は思考・行動様式・価値感など文化の特性を反映していると言われるが、特にビジネス英語の修得には、英語の知識だけでなく国際取引上の専門用語や背景にあるビジネス慣行などを理解することが必要となる。また、外国との時差に関係なく使えるコミュニケーションの手段として、ファクシミリや電子メールが普及したことにより、書くことの必要性が高まっている。

そこで本講座では、国際貿易実務の基礎知識と専門用語を学習しながら、英文ビジネス・レターの書き方を中心としたビジネス英語を修得する。

【講義計画】 前期：Letters on Business Situations
貿易取引の流れに従って、貿易通信文を中心にその書き方を学習する。

後期：Letters on Social Situations
ビジネスに伴う出張・訪問の手配、招待状、各種の礼状や挨拶状などの書き方。

なお、貿易実務や国際取引の実際については、35年間の国際ビジネス経験をベースに、具体的事例を挙げて講義する。また、実際に使われたビジネス文書やスピーチ原稿なども教材にする。

【評価方法】 授業への参加度、中間小テストおよび期末試験の成績による。

【テキスト】 “BUSINESS LETTERS FOR ALL” Oxford Univ. Press, 1997

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|-----------|-----|-----|----|----------|-----------------|
| 51444 51454 | ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ | 選・必 | 2~4 | 各2 | 前期 後期 | Tanner, P. |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 可 重複履修 不可 |

【講義内容】 This is an activity-based class in Business English. Active participation is required from all students. The class will provide students with a basic knowledge of international business culture and give students a chance to practice the basic sentence patterns they learn in class. The course will also provide students with the necessary skills to conduct typical business activities such as negotiations, presentations and designing business strategy, etc. This is part two of a two part course. Part one business English I & II.

【講義計画】 The focus of this will be directed on the four main areas of Business English competency: Reading, Writing, Listening and Speaking; with special emphasis on Listening. Each business situation based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson.

Students are strongly advised to bring a dictionary, pencils and paper to class. Speaking activities will consist of pair

work and group activities.

【評価方法】 Student assessment will be based on attendance, daily participations and daily quizzes. Passing grades will be: A, B, or C. Student with more than 3 unexcused absence will be withdrawn from the class.

【テキスト】 The text for the class will be Meeting Objectives-Activity Book, a video-based activity workbook. (V. Hollet, Oxford University Press, 1992)

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|--------|----|-----|----|-------|-----------|
| 51601 | 経済史入門A | 選 | 2~4 | 2 | 前期 | 櫻井 健吾 |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 可 重複履修 不可 |

【講義内容】 第1編 近代経済史研究への序説
 第1章 産業革命の人類史的位置：
 C. M. チボラの「人類史における二つの革命」論を中心として
 第2章 概念上の諸問題：
 (1) 経済成長、(2) 工業化、(3) 資本主義、(4) 産業革命
 第3章 産業革命の研究史：悲観論と楽観論
 第4章 W. W. ロストウの「離陸」論：
 『経済成長の諸段階』（1960年、増補版1971年）
 第5章 A. ガーシェンクロンの「比較後進性」の仮説：
 『歴史的展望の中での比較後進性』（1962年）
 第2編 人口と工業化
 第1章 前工業化時代の人口（800 - 1800年）：
 「マルサスの悪循環」の世界
 第2章 工業化時代の人口（1750 - 1914年）：
 「マルサスの悪循環」の克服と「人口爆発」
 第3章 ドイツの過剰人口、窮乏化問題、工業化（1800 - 1850年）：
 過渡期の人口と経済
 第4章 ドイツの工業化、国内人口移動、都市化（1850 - 1914年）：
 「水平的・垂直的流動性」
 第5章 人口転換（1800 - 1980年）：
 「農業的人口様式」から「工業的人口様式」へ

【評価方法】 定期試験（80点）、出席（20点）

【テキスト】 プリント

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|--------|----|-----|----|-------|-----------|
| 51603 | 経済史入門B | 選 | 2~4 | 2 | 後期 | 川崎 勝 |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 可 重複履修 不可 |

【副 題】 日本における「経済社会」成立の前提

【講義内容】 日本で現在につながる「経済社会」が成立したのは江戸時代だといわれているが、それは一挙にそうならなかったわけではなく、それまでに十分な準備段階があった。今年度は、日本列島に展開された諸々の生業の営みを歴史的に捉え、「経済社会」が成立するにいたる前提条件を考察し、「経済史」とはどのような学問かを問うことにする。

【講義計画】 原始時代から江戸時代初頭までの時期を対象とし、原始社会の多様性、日本列島と民族、漁撈・狩猟・農耕の展開、土地に密着した租税体系、商品流通と人々の移動、東アジア世界との交流などについて、経済生活を軸にして、政治・文化と関連づけながら講義する。

【評価方法】 学期末試験による。

【テキスト】 網野善彦『日本社会の歴史』上・中・下〈岩波新書・新赤版500－502〉岩波書店、1997年

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|---------|----|-----|-------|----------|---------|
| 51605 51607 | 経済数学Ⅰ・Ⅱ | 選 | 2～4 | 各2 | 前期 後期 | 皆川 正 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 ミクロ経済学やマクロ経済学を学ぶ上で不可欠と思われる数学的手法について講義する。出来るだけわかりやすく説明するつもりである。

【テキスト】 ヘンダーソン・クォント著、小宮・兼光訳『現代経済学』創文社

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|--------|----|-----|-------|----------|---------|
| 51611 51612 | 統計学入門Ⅰ | 選 | 2～4 | 2 | 前期 後期 | 荒深 美和子 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【副題】 (経済) データの分析

【講義内容】 統計学は、実際のデータを分析して、データの特徴を整理・要約したり、データが生成された元々の集団について推測する方法を学ぶ学問である。

本講義では、(経済) データに現れた特徴や各データ間の関係などを整理・要約し記述する方法(記述統計学)を学ぶ。1年次の「データ処理入門」で学んだ表計算ソフトExcelを使って演習や宿題を行う。

【講義計画】 (1) 代表値
(2) 度数分布
(3) 分散、標準偏差
(4) 検定
(5) 相関と回帰

【評価方法】 各課題のレポート、期末テスト

【テキスト】 講義時に適宜資料を配布

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|-----------|----|-----|-------|----------|---------|
| 51615 51617 | 経済思想入門Ⅰ・Ⅱ | 選 | 2～4 | 各2 | 前期 後期 | 大谷津 晴夫 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【副題】 市場と貨幣の経済思想

【講義内容】 講義の主要項目は以下の通り。

1. 社会の分化と市場の成立
2. 市場の秩序
3. 道徳経済と市場経済
4. 政治と経済
5. 公正と均衡
6. 市場の失敗
7. 市場と組織
8. 非市場社会
9. 市場社会と貨幣

- 10. コミュニケーションと貨幣
- 11. 貨幣の経済機能
- 12. インフレーションとデフレーション

【評価方法】 定期試験と随時行う小テストの成績に従って評価する。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|----------|----|-----|-----------|----------|-------------|
| 51621 51623 | 計量経済学Ⅰ・Ⅱ | 選 | 3・4 | 各2 | 前期 後期 | 近藤 仁 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履修 | 可 | 重複 履修 不可 |

【副題】 計量経済分析

【講義内容】 現実のデータを基礎に経済的な仮説を検証する手法を研究すること、およびコンピュータを用いて実証的に分析することが計量経済学の学問領域である。計量経済学Ⅰ（前期）では、経済データの種類や特性を理解し、計量モデルの特性、および基本的な計量分析手法である「最小自乗法」の理論や分析結果の評価方法を修得し、計量経済学Ⅱ（後期）では各自でテーマを選び、計量経済分析用コンピュータ・ソフトウェア「TSP」を利用して実証分析を行うとともに、実際の分析において生じる問題の解決方法を学習する。

【講義計画】 計量経済学Ⅰ

- ①経済データ種類と特性
 - (i) 時系列データとクロスセクションデータ
 - (ii) フローデータとストックデータ
 - (iii) 年次（歴年、年度）・4半期データの特性や季節調整
 - (iv) 指数データの作成や基準年次の変更方法
- ②計量経済モデル
- ③最小二乗推定法
 - (i) 計量経済分析とその利用
 - (ii) 最小二乗推定法
 - (iii) 最小二乗推定量の統計的特性
 - (iv) 推定結果の評価（説明力、有意性検定、自己相関の有無等）

計量経済学Ⅱ

- ④推定手法の拡張
 - (i) 多重共線性がみられる場合の推定
 - (ii) ダミー変数導入の意義と注意点
 - (iii) ラグの使用法
 - (iv) 構造変化
 - (v) 一般化最小二乗法の利用
 - (vi) 予測とシミュレーション
- 等について学習する。

【評価方法】 レポート及び実証研究報告と試験で総合的に評価する。

【テキスト】 蓑谷千風彦著『計量経済学』、東洋経済新報社

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|----------|----|-----|-----------|----------|-------------|
| 51625 51627 | 経済統計論Ⅰ・Ⅱ | 選 | 3・4 | 各2 | 前期 後期 | 野村 信廣 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履修 | 可 | 重複 履修 不可 |

【副題】 経済分析のための経済統計

【講義内容】 経済統計の内容を理解し、実際に日本経済を分析するうえでの経済統計の読み方と利用方法を学び、その分析結果について考える。

【講義計画】 テキストをまず理解するところからスタートし、必要に応じてそのつど新しい経済統計を用意、最近の経済動向について分析する。時に、学生達を対象にアンケート調査やシミュレーション（模擬実験）を行い、経済統計と経済分析を身近なもの（等身大の経済学）にする。最終的には各自が与えられたテーマを経済統計を利用しながら分析できる能力を身に付けて欲しい。

【評価方法】 各期末の筆記テストにアンケート・実験への参加度、出席状況を加味して総合的に評価する。

【テキスト】 中村隆英・新家健精・美添泰人・豊田 敬著「経済統計入門」（東大出版会）

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------------|----------|----|-----|------------|----------|---------------|
| 51655 51657 | 経済変動論Ⅰ・Ⅱ | 選 | 3・4 | 各2 | 夏期 集中 | 田原 昭四 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 可 | 重 複 履 修 不可 |

【副 題】 景気変動の理論的・実証的研究

【講義内容】 景気変動の性格と形態、景気理論の歴史と発展、景気政策の意義と特徴を論述するとともに、日本経済および世界経済における景気変動の実証的分析を取り上げる。

【講義計画】 経済変動論Ⅰでは、景気変動について基礎的知識と実証的研究を論述する。経済変動論Ⅱでは、これを踏まえて近代的景気理論と現代的景気理論、および景気政策を論述する。

【評価方法】 講義末試験の結果を重視する。また、出席状況も評価する。

【テキスト】 田原昭四『日本と世界の景気循環』（東洋経済新報社、1998）を基本にした資料を配布。

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------------|---------|----|-----|------------|----------|---------------|
| 51665 51667 | 財政学Ⅰ・Ⅱ | 選 | 3・4 | 各2 | 前期 後期 | 石田 昌夫 |
| 他の科目 との関連 | 経済学関係科目 | | | 他学科 履 修 | 可 | 重 複 履 修 不可 |

【副 題】 政府行動の経済分析

【講義内容】 政府の行動を、経済面から考えるのが財政学である。この授業は財政学を初めて学ぶ人を対象に、基本的に必要と考えられる内容を丁寧に分かりやすく説明しようとするものである。経済学の基礎を学んでいれば授業の理解の助けにはなるが、この授業では何らかの予備知識を求めることのない形で進めたい。

政府の行動を直接の対象とすることから、財政学は公務員試験の必修科目となっているが、その内容は、政府の支出面（国のお金を何に使うか）、収入面（必要な財源をどうするか）、および財政政策（民間部門でなく、政府にしかできないことは何か、それをどう実行するか）に分けられる。この3つの分野の要点を順次、簡明に説明していく。

授業の全体を通して、日常の経済問題のポイントを自分自身で判断できるための基礎的素材が提供される。

【講義計画】

1. 政府の存在理由
2. 政府の活動範囲
3. 市場の機能と市場の失敗
4. 大きな政府と小さな政府
5. 日本の予算制度
6. 所得税
7. 消費税
8. 赤字財政の諸問題
9. 社会保障

【評価方法】 期末試験の結果を中心にして、出席状況やレポート内容を加味する。

【テキスト】 指定しない。参考書はトピックスに応じて適宜指摘する。

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------------|--------|----|-----|------------|----------|---------------|
| 51671 51673 | 金融論Ⅰ・Ⅱ | 選 | 3・4 | 各2 | 前期 後期 | 荒井 好和 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 可 | 重 複 履 修 不可 |

【講義内容】 「金融」とは何だろうか。いま試みに、「金融とは、国内・国際を問わず、おカネの動きにかかわる経済活動である」と考えてみれば、私たちの毎日の生活は、「金融」なくしては成り立たないことは自明であるといつてよい。私たちが日々接する経済情報の中でとりわけ「金融」に関する情報が多いのも当然であろう。しかしながら、断片的な経済情報をただ漫然と眺めているだけでは、「金融」が、国民所得、雇用、金利、国際収支といったその他の重要な経済変数と、どこでどのようにかかわり合っているかを理解することはできない。金融とその他の経済活動との関係を捉えるためには、「理論」という道具がいる。すなわち、理論という道具を使って、金融現象が他の経済活動とどのように絡み合っているのかを明らかにしようとするのが金融論である。したがって、ミクロ・マクロ経済学の基礎知識を前提とする。

金融の分野では、実際の金融制度や金融市場の仕組みに関する知識が不可欠であるが、この講義では、そうした実際の知識と理論の提携をはかりながら、現実の金融諸問題について理解を深めることを目的としている。

【講義計画】 金融論Ⅰでは、経済活動と金融システムの関わりを概説する。金融とは何か（イントロダクション）、経済成長と金融資産の蓄積、金融機関、等について概説した後、カレント・トピックスとして、日本版ビッグ・バン、銀行の不良債権問題、アジアの通貨危機、ヨーロッパ通過統合問題などをとりあげ、金融と経済活動との関係を解説する。

金融論Ⅱでは、理論という道具の修得をめざす。家計・企業・金融機関・中央銀行それぞれの金融行動を明示し、マクロ経済における相互の依存関係を考える。

【評価方法】 適宜おこなうレポート提出および定期試験の結果を総合的に考慮して評価する。

【テキスト】 未定。

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------------|-----------|----|-----|------------|----------|---------------|
| 51675 51677 | 仕事の経済学Ⅰ・Ⅱ | 選 | 3・4 | 各2 | 前期 後期 | 村松 久良光 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 可 | 重 複 履 修 不可 |

【講義内容】 日本の雇用、賃金、労働組合の仕組みとその機能について、普通に言われていることと、小池和男氏の「知的熟練仮説」を対比しながら、技能形成を軸とした労働市場の見方を講義する。

【講義計画】 基本的には下記のテキストにそって説明し、統計資料や事例を示し、時にグラフなどを作成してもらう。

前期の「仕事の経済学Ⅰ」：

序説：さまざまな労働者グループ

- 1：知的熟練
- 2：大企業労働者のキャリア
- 3：大卒ホワイトカラーの人材開発
- 4：報酬pay-年功賃金か
- 5：長期雇用と解雇

後期の「仕事の経済学Ⅱ」：

- 6：現代の理論
- 7：中小企業労働者
- 8：女性労働者
- 9：高年労働者
- 10：日本方式の海外通用性
- 11：働く場での労働組合
- 12：マクロの労働経済
- 13：基礎理論と段階論

【評価方法】 授業への参加熱心度、レポート、筆記の定期試験の成績。

【テキスト】 小池和男『仕事の経済学第2版』（東洋経済新報社、1999）。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|--------|----|-----|----|--------|--------|
| 51685 | 産業組織論Ⅰ | 選 | 3・4 | 2 | 後期 | 上田 薫 |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修可 | 重複履修不可 |

【講義内容】 企業の様々な行動・戦略を理解し社会的妥当性を考える際に有用な、寡占市場の理論及びその基礎にある分析手法を紹介する。簡単な微積分の知識があることが望ましい。

- 【講義計画】
1. 寡占の基礎理論
 - 1-1 独占市場と社会的余剰
 - 1-2 ナッシュ均衡
 - 1-3 クールノー複占
 - 1-4 クールノー寡占と極限定理
 - 1-5 ベルトランの逆説
 2. 寡占の多段階モデル
 - 2-1 二段階完全情報ゲーム
 - 2-2 二重マージン問題
 - 2-3 部分ゲーム完全均衡
 - 2-4 参入阻止の理論
 - 2-5 流通管理政策

【評価方法】 定期試験の成績で評価する。

【参考書】 丸山雅祥・成生達彦「現代のミクロ経済学」 創文社 1997年の第3章、第10章、第12章に沿って授業を進める。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|---|----|-----|----|--------|--------|
| 51687 | 産業組織論Ⅱ | 選 | 3・4 | 2 | 後期 | 上田 薫 |
| 他の科目との関連 | 産業組織論Ⅰの同時履修、またはその内容に関する知識を持っていることが望ましい。 | | | | 他学科履修可 | 重複履修不可 |

【講義内容】 マーケティング行動、製品戦略などの、企業の多様な競争戦略を説明・評価するために、経済理論をどの様に用いることが出来るか紹介する。

- 【講義計画】
1. 価格差別
 - 1-1 価格差別の利益
 - 1-2 グループ別価格差別
 - 1-3 非線形価格
 - 1-4 セット販売
 - 1-5 空間的価格差別
 2. 製品戦略
 - 2-1 マーケティング変数と利潤最大化
 - 2-2 品質決定における独占の弊害
 - 2-3 品質差別化
 - 2-4 独占的競争
 - 2-5 品質と情報

【評価方法】 定期試験の成績で評価する。

【参考書】 丸山雅祥・成生達彦「現代のミクロ経済学」 創文社 1997年の第4章及び第7章に沿って授業を進める。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------------|----|-----|-------|------|---------|
| 51700 | 現代産業事情（起業論） | 選 | 3・4 | 2 | 夏期集中 | 三善 英夫 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目 71813 「現代産業論（起業論）」を参照。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|----------------|----|-----|-------|------|---------|
| 51701 51702 | 現代産業事情（損害保険事情） | 選 | 3・4 | 各2 | 前期後期 | 田形 博之 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目 71801・71802 「現代産業論（損害保険論）1・2」を参照。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|----------------|----|-----|-------|------|---------|
| 51703 51704 | 現代産業事情（総合商社事情） | 選 | 3・4 | 各2 | 前期後期 | 松井 清治 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目 71803・71804 「現代産業論（総合商社論）1・2」を参照。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|-----------------|----|-----|-------|------|---------|
| 51705 51706 | 現代産業事情（自動車産業事情） | 選 | 3・4 | 各2 | 前期後期 | 願興寺 皓之 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目 71805・71806 「現代産業論（自動車産業論）1・2」を参照。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|----------------|----|-----|-------|------|---------|
| 51707 51708 | 現代産業事情（電機産業事情） | 選 | 3・4 | 各2 | 前期後期 | 三田 良治 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 不可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目 71807・71808 「現代産業論（電子・電機産業論）1・2」を参照。

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------------|----------------|----|-----|------------|----------|---------------|
| 51709 51710 | 現代産業事情（都市銀行事情） | 選 | 3・4 | 各2 | 前期 後期 | 高木 夏樹 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 不可 | 重 複 履 修 不可 |

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目 71809・71810「現代産業論（都市銀行論）1・2」を参照。

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------------|----------|----|-----|------------|----------|---------------|
| 51711 51713 | 国際経済学Ⅰ・Ⅱ | 選 | 3・4 | 各2 | 前期 後期 | 山田 正次 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 可 | 重 複 履 修 不可 |

【講義内容】 モノやサービスの輸出入、外国との資金の貸借等、国境を越える種々の経済取引を対象として、それらに固有な原因や仕組み、そしてそれらの経済効果を明らかにし、そうした国際経済取引への政府の介入についても講述する。

【講義計画】 国際貿易、貿易政策、そして国際資本移動を主要テーマとして取り上げ、以下の各章の前半を「国際経済学Ⅰ」、後半を「国際経済学Ⅱ」として、現実の経済にも触れながら講義をする。

1. 比較優位の原理
2. 比較優位と生産要素
3. 貿易利益と交易条件
4. 保護貿易政策
5. 国際資本移動
6. 国民所得と経常収支

【評価方法】 定期試験の結果だけで評価する。

【テキスト】 使用せず。適宜、必要な文献を紹介する。

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------------|----------|----|-----|------------|----------|---------------|
| 51721 51723 | 国際金融論Ⅰ・Ⅱ | 選 | 3・4 | 各2 | 前期 後期 | 吉本 佳生 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 可 | 重 複 履 修 不可 |

【副 題】 国際金融を題材に、現実の経済問題について分析するための能力を磨きましょう。

【講義内容】 ①なくならない貿易黒字・赤字、②大きく変動する為替レート、③複雑化する国際金融取引、④変革期を迎えた国際通貨制度、といったテーマについて、“現実の取引や制度”を知り、“自分で考えるのに使える基礎理論”を学び、“論理的にセンスよく考える能力”を身につけましょう。

【講義計画】

第Ⅰ部 国際経済取引の制度と現実
 1. 国際収支表 2. 国際貿易の決済と外国為替市場 3. 自由貿易と国際通貨制度

第Ⅱ部 国際マクロ経済学の基礎
 1. マクロ経済の基礎概念 2. 貯蓄－投資バランス 3. マクロ経済政策 4. 資産価格の基礎理論

第Ⅲ部 為替レートの理論と現実
 1. 購買力平価 2. 金利平価 3. ニュースと為替レート 4. 為替レート変動の影響

第Ⅳ部 国際金融取引の技術革新
 1. 国際金融取引の諸類型 2. スワップのしくみ 3. オプションのしくみ

第Ⅴ部 国際通貨制度の変革
 1. EUの通貨統合 2. アジア通貨危機 3. 国際通貨制度の改革

【評価方法】 期末試験のみで評価する予定ですが、それに加えてレポートを課す可能性もあります。

【テキスト】 吉本佳生／渡辺智恵著『The Economistの記事で学ぶ「国際経済」と「英語」』（日本評論社、1998年、2000円＋税）

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|-----------------|-----|-----|------------|----------|---------------|
| 51731 51732 | 世界経済事情（中国経済Ⅰ・Ⅱ） | 選 | 3・4 | 各2 | 前期 後期 | 塚本 隆敏 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 可 | 重 複 履 修 不可 |

【副 題】 中国における市場経済をめぐる

【講義内容】 中国経済はシステム転換の下で、計画経済システムから市場経済システムに移行中です。そうした市場経済システムがどのようになされているかを中心に講義を進めます。

1978年末の「改革開放」政策が導入されて20年たち、まず第一に農村・農業改革から始め、人民公社の廃止に伴う生産責任請負制と郷鎮企業を導入しました。そして、第二に都市・工業の改革、つまり企業の自主権、利改税、株式改革などです。そうした改革がもたらしたマイナス面として、インフレ問題（現在デフレ問題）、失業問題、さらに腐敗・不正の蔓延問題、そして地域間発展の不均衡と所得格差拡大の問題などです。それにも拘らず、21世紀前半の中国経済の規模は日本を追い越して、アメリカに迫る勢いです。そうした中国経済の実態・実証分析を中心にします予定です。

【講義計画】 市場経済に伴うキーワードに沿った講義を予定。そのいくつかのキーワードを紹介。1. 国有企業の株式制。2. 国有企業等の企業経営者の経営姿勢。3. 企業改革に伴う社会保障問題。4. 労働者・職員の帰属意識問題。5. 失業問題。6. 女性のリストラ問題。7. 農民負担問題。8. 税・財政問題等々。こうした諸問題を中心に、中国経済の諸課題を講義。

【評価方法】 前期・後期、テスト実施。尚、中国経済関係に関する本の読後感の提出。

【テキスト】 塚本隆敏著『中国・市場経済への転換』（税務経理協会）

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|--------------|-------------------|-----|-----|------------|-----|---------------|
| 51736 | 世界経済事情（現代アメリカ経済Ⅰ） | 選 | 3・4 | 2 | 前期 | 辻 正 次 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 可 | 重 複 履 修 不可 |

【副 題】 アメリカ経済の仕組み

【講義内容】 アメリカ経済の特徴を日本経済との比較から明らかにする。アメリカ経済は市場取引が原則であり、短期的かつ競争的なシステムが確立されている。しかしながら、70年代の石油ショック以降、その国際競争力は著しく低下した。その原因を、日本の経済システムと比較しながら解説する。その際、情報の経済学など最近の理論的成果も取り入れる。

【講義計画】

1. 石油ショックと生産性の低下
2. レーガノミックスの功罪
3. 米国の雇用システム
4. 米国の企業システム
5. 80年代の米国のマクロ経済

【評価方法】 試験による

【テキスト】 辻 正次『エコノミックス・イン・アクション』日本評論社、1997年
辻・西脇『ネットワーク未来』日本評論社、1997年

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|-------------------|----|-----|-------|----|------------|
| 51737 | 世界経済事情（現代アメリカ経済Ⅱ） | 選 | 3・4 | 2 | 後期 | 辻 正 次 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重 複 履 修 不可 |

【副 題】 アメリカ経済の再生

【講義内容】 1990年代中頃から成長率や失業率などみた米国経済のパフォーマンスの改善は著しい。このような状況は米国が新しい経済段階に入ったという「ニューエコノミー論」の根拠となっている。さらに、経済の情報化の観点から、米国の経済の構造変化を概観し、米国経済システムが「ネットワークの経済性」と合致するものであることを明らかにする。

- 【講義計画】
1. 構造変化からみた米国経済
 2. 経済の情報化とネットワークの経済性
 3. 米国生産性の回復の
 4. 事例分析1：米国自動車産業の復活
 5. 事例分析2：ベンチャー・ビジネス

【評価方法】 試験による

【テキスト】 辻 正次『エコノミックス・イン・アクション』日本評論社、1997年
辻・西脇『ネットワーク未来』日本評論社、1997年

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|--------|----|-----|-------|----|------------|
| 51743 | 西洋経済史Ⅱ | 選 | 3・4 | 2 | 後期 | 櫻井 健吾 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重 複 履 修 不可 |

【副 題】 人口史を中心とした西洋経済史

【講義内容】 ドイツの人口転換、ドイツ人の海外移住、ドイツの国内人口移動を対象とする。受講者は、経済史入門Aを履修しておくことが好ましい。

【評価方法】 筆記テストと出欠

| 科目コード | 科 目 名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担 当 者 |
|----------|--------|----|-----|-------|----|------------|
| 51745 | 日本経済史Ⅰ | 選 | 3・4 | 2 | 前期 | 川 崎 勝 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重 複 履 修 不可 |

【講義内容】 日本経済史では、江戸時代より第二次世界大戦までの時期を対象とし、国際的環境、とりわけ東アジアとの関係を視野におさめながら、近代日本の経済の発展の諸条件とその構造を考える。
日本経済史Ⅰは、江戸時代から明治十四年政変までを講義する。

- 【講義計画】
1. 江戸時代。幕藩体制と鎖国、農業発展と非農業社会、商品経済の展開、特に元禄期以降の経済発展と社会構造の変化をみていく。
 2. 幕末「開港」。国際的環境の変化と開港にともなう国内経済への影響を考える。
 3. 明治時代前期。明治初期の経済政策、土地制度の改変、殖産興業、官有物払下問題の意味を探る。

【評価方法】 学期末試験による。

【テキスト】 特定のテキストは使用しない。講義で、参考文献を紹介する。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|--------|----|-----|-------|----|---------|
| 51747 | 日本経済史Ⅱ | 選 | 3・4 | 2 | 後期 | 川崎 勝 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 日本経済史の全体については、Ⅰを参照。
日本経済史Ⅱは、明治十四年政変後の松方財政から、アジア・太平洋戦争にいたる時期を講義する。

【講義計画】

1. 松方財政から第一次世界大戦へ。大隈財政と松方財政、いわゆる資本の原始的蓄積、企業勃興、日清・日露戦争と戦後経営、財閥と地主制、植民地の形成。
2. 第一次世界大戦からアジア・太平洋戦争へ。第一次大戦と日本経済、世界経済の新局面と日本、世界大恐慌と日本、大陸進出、戦時経済。
3. 戦後日本経済への見通し。

【評価方法】 学期末試験による。

【テキスト】 特定のテキストは使用しない。講義で、参考文献を紹介する。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|----------|----|-----|-------|----------|---------|
| 51751 51753 | 経済思想史Ⅰ・Ⅱ | 選 | 3・4 | 各2 | 前期 後期 | 橋本 昭一 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【副 題】 古代から現代に至る経済思想の展開

【講義内容】 経済思想史Ⅰでは、経済思想と人間観・社会観とのつながりについて総論的な説明をした後、古代・中世の思想家（哲学者や神学者）の経済観を概説、つづいて重商主義・重農主義・古典派経済学の経済思想を解説、さらに古典派批判としての歴史学派と社会主義思想について概説する。経済思想史Ⅱでは、近代経済学と呼ばれている19世紀末から主流派となる新古典派経済学の形成と展開について語る。

【講義計画】

経済思想史Ⅰ

- 第1編 経済活動と人間・社会・国家
- 第2編 19世紀中葉までの経済思想の展開

経済思想史Ⅱ

- 第1編 近代と経済学
- 第2編 限界革命の経済学
- 第3編 マーシャルの経済思想
- 第4編 ケインズ革命
- 第5編 現代経済学の諸潮流

【評価方法】 定期試験と提出自由なレポート（レポートは就職活動等で講義出席が不可能な学生向け、詳しくは第1回の講義時間中に説明）

【テキスト】 橋本昭一著『近代経済学の形成と展開』（昭和堂）参考文献はプリント配布の予定。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|--------|----|-----|-------|------|---------|
| 51761 | 経済体制論Ⅰ | 選 | 3・4 | 2 | 夏期集中 | 福田 敏浩 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【副題】 経済体制基礎論

【講義内容】 経済体制は国民経済の制度的フレームワークである。本講義ではそうした経済体制にかかわる基礎的事項を解説してみたい。

【講義計画】

1. 経済体制とはなにか
2. 経済体制の仕組み
3. 経済体制の分類
4. 経済体制の変動
5. 経済体制の転換

【評価方法】 筆記試験と出席回数を単位認定の基準とする。

【テキスト】 福田敏浩『比較経済体制論原理』、晃洋書房

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|------------------------|----|-----|-------|------|---------|
| 51763 | 経済体制論Ⅱ | 選 | 3・4 | 2 | 夏期集中 | 福田 敏浩 |
| 他の科目との関連 | 経済体制論Ⅰを履修しておくことがのぞましい。 | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【副題】 世紀末の移行経済

【講義内容】 20世紀末は社会主義から資本主義への移行経済の時代である。本講義では経済体制論の角度から移行経済の展開過程を具体的に論じてみたい。

【講義計画】

1. ベレストロイカ・東欧革命・ソ連の消滅
2. 社会主義から資本主義へ
3. 私有化政策
4. 貨幣化政策
5. 移行経済のセカンド・ステージ

【評価方法】 筆記試験と出席回数を単位認定の基準とする。

【テキスト】 福田敏浩『体制転換の経済政策』、晃洋書房

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|----------|----|-----|-------|----|---------|
| 51771 51773 | 経済と社会Ⅰ・Ⅱ | 選 | 3・4 | 各2 | 前期 | 阪本 俊生 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【副題】 経済学以外の視点からみた経済現象

【講義内容】 経済学とは異なる視座から経済現象を考えている諸議論を紹介し、経済と社会との関わりについて幅広い視野から見ていくことを学びます。記号理論、文学社会学の理論、経済人類学の理論、人間学の理論などを通じて人間の欲望、消費社会や流行について考えていきます。

- 【講義計画】 以下のことについて話していきます。
- ・見栄と欲望……衛生的消費。
 - ・記号という点から見た経済と消費社会。
 - ・差異化と社会階層。
 - ・社会関係と欲望：欲望の三角関係と嫉妬、羨望そして流行。
 - ・消費することの意味について。
 - ・社会に埋め込まれた経済と、経済に埋め込まれた社会。
 - ・稀少性と欲望の悪循環。
 - ・近代社会と欲望の鎮め。

【評価方法】 出席、学期末の筆記試験。

【テキスト】 なし。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|-------------------|----|-----|-------|----------|---------|
| 51787 51788 | 特別テーマ講義（開発経済学Ⅰ・Ⅱ） | 選 | 3・4 | 各2 | 前期 後期 | 林 尚志 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【副題】 東アジアの経済発展：新たなるダイナミズムを求めて

- 【講義内容】 本講義では、近年めざましい経済発展を遂げ世界的な脚光を浴びながら一転して深刻な経済危機に陥った東アジア経済の「発展の軌跡」に注目し、以下の疑問点を探っていく。
- (1) これら諸国が工業化を中心とする経済発展を求めに至った背景とは何であったのか？
 - (2) いかなる試行錯誤の過程を経て、驚異的な発展のダイナミズムが生まれたのか？
 - (3) なぜ一転して深刻な経済危機に陥ったのか？ 再生に向けた課題とは何なのか？

【講義計画】 以下の構成に沿って講義を行う予定。なお、予め1講義当たり数問からなる疑問点をまとめた教材プリントを配布し、これらの疑問に答えていく形で講義を進める。随時小テストを行い、出席者の理解度に基づいて進度を調整するつもりである。

1. 東アジア工業化の背景
2. 初期工業化戦略とその限界
3. 輸出指向戦略への転換
4. 直接投資の波と産業構造の高度化
5. 「東アジアの奇跡」の意味すること
6. 「アジア経済危機」と今後の再生に向けて

【評価方法】 定期試験、および随時行われる予定の小テストに基づいて評価を行う。

- 【テキスト】 特にテキストは定めないが、以下を参考文献とする予定。
- (1) 世界銀行（白鳥正喜訳）『東アジアの奇跡』（東洋経済新報社、1994年）
 - (2) 渡辺利夫・足立文彦・文大宇著『図説アジア経済・第2版』（日本評論社、1997年）
 - (3) 大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』（有斐閣、1997年）

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|---------|----|-----|-------|----------|---------|
| 51801 51803 | 会計原理Ⅰ・Ⅱ | 選 | 1～4 | 各2 | 前期 後期 | 飯田 穆 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 企業会計は企業行動の帰結を会計的測定手法によって測定し、社会に報告する。測定対象となる企業行動の帰結とはどのような性質をもつのか、会計的測定手法とはどのようなメカニズムをもつのか、社会への会計報告とはどのような意味内容をもつのか、を理解することが課題である。

【講義計画】 1. 企業と社会との関連

2. 会計的取引の意味と内容
3. 複式簿記の原理
4. 会計理論の枠組み
5. 会計的評価の構造
6. 会計情報開示制度

【評価方法】 試験

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-----|----|-----|-------|----|--------|
| 51841 | 民法 | 選 | 2~4 | 4 | 通年 | 松倉 耕作 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修不可 |

【講義内容】 民法は日常生活に最も密接な関連をもった法律である。民法を大別すると、財産法と家族法とに分けることができる。

財産法の例をいえば、将来マンションを購入する場合に、銀行から借金をし、担保（抵当権）を設定するであろう。このような場合の法律関係を扱います。その他に、交通事故や借地借家の問題も民法の対象となります。

他方、家族法の例としては、離婚や親子関係、さらには相続などがこれに含まれます。

【評価方法】 原則として、前期後期のテストを平均するが、いずれかが優れていれば合格する場合もある。

【テキスト】 嵯峨野書院『資料でみる財産法』

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-----|----|-----|-------|----|--------|
| 51845 | 商法 | 選 | 3・4 | 4 | 通年 | 田中 裕明 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修不可 |

【講義内容】 本講義では、商法全般について講述する。総論として、商法を企業法としてとらえる立場から、商法にはどのような特色が認められるか、特に民法との相違はどのようなものであるかを、まず明らかにする。次いで各論として以下の項目について講述する（会社法については、株式会社を中心に講述する）。

【講義計画】 （各論）

- 1 企業組織
商人概念と会社概念
- 2 企業活動と企業運営
株式会社の特色、株式制度、株式会社の機関
- 3 企業証券
手形の仕組み

講義には必ず最新版の「六法」を持参すること。

【評価方法】 前期・学年末の定期試験の成績で行う。

【テキスト】 喜多了祐『商法の要説』（中央経済社）
（参考書）西尾幸夫・国友順市編著『商法Ⅰ・Ⅱ』（嵯峨野書院）

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 | | |
|----------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|------|----|
| 51851 | 経済法 | 選 | 3・4 | 4 | 通年 | 田中 裕明 | | |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 | 不可 |

【講義内容】 経済法総論として、経済法とは何か、民・商法とはどのような関係に立つかについて言及し、経済法の位置付けを明らかにする。次に各論として独占禁止法を対象に、その三本柱とされる「私的独占の禁止」、「不当な取引制限の禁止」および「不公正な取引方法の禁止」について講述する。

- 【講義計画】
- I. 総論
経済秩序と経済法
 - II. 各論－独占禁止法－
 - 1 独占禁止法の目的と基礎概念
 - 2 私的独占の禁止
 - 3 不当な取引制限の禁止
 - 4 企業結合規制
 - 5 不公正な取引方法の禁止
 - 6 手続その他

講義には必ず最新版の「六法」を持参すること。

【評価方法】 前期・学年末の定期試験の成績で行う。

【テキスト】 根岸哲・杉浦市郎編『経済法』（法律文化社）

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 | | |
|----------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|------|----|
| 51855 | 労働法 | 選 | 3・4 | 4 | 通年 | 和田 肇 | | |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 | 不可 |

【講義内容】 法学部開講科目 81551 「労働法」を参照。

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 | | |
|----------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|------|----|
| 51861 | 行政法 | 選 | 3・4 | 4 | 通年 | 栗本 雅和 | | |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 | 不可 |

【講義内容】 行政法は、憲法、民法、商法、刑法等と異なり、その基本となる法典が存在しない一方で、現在わが国で有効な 1,500 余の法律（国会制定法）の大半は、行政法に属する、といわれる。したがって、その内容は、バラエティーに富むが、講義の中核は、国・地方公共団体等の行政体に認められる“権力”の中身の究明とその行使方法の民主的統制の確立にある。地方行政にも関心を払い、かつできるだけ具体例の引用を心がけたい。

具体的講義内容は、下記の通りである。

〈総論〉

現代行政の特色、行政法の特色、行政法の基本原則、国と地方の行政組織、行政行為の諸問題、非権力の行政手法、行政強制、行政手続、行政救済

〈各論〉

地方自治法、公務員法、警察法、防衛法、教育法、衛生法、経済法、財政法、社会保障法、開発行政法、公害防止・環境保全法

【評価方法】 前期試験（40点）＋後期試験（60点）＝100点満点とする。

【テキスト】 使用予定であるが、具体的には、開講前に指示する。
六法必携のこと（法解釈学における六法は、語学における辞書）。